

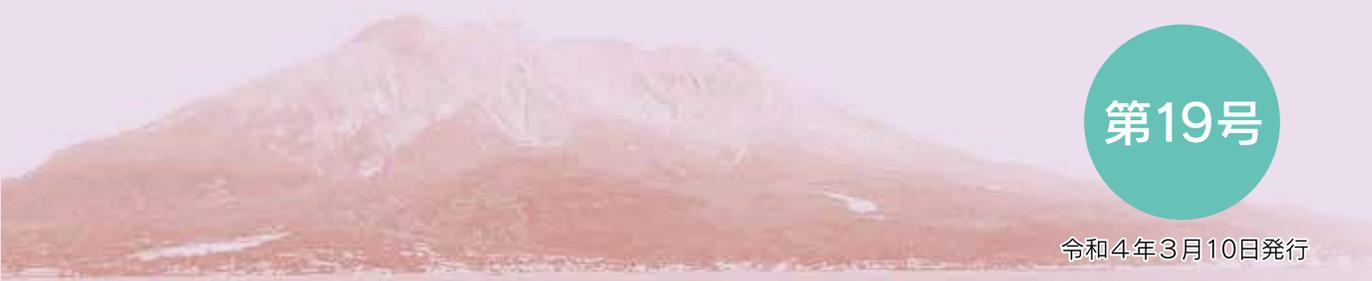


南桜風

鹿児島大学工学部同窓会会報



第19号



令和4年3月10日発行

鹿兒島大学工学部創立75周年記念事業	
鹿兒島大学工学部創立75周年記念事業期成会	
鹿兒島大学工学部創立75周年記念事業報告 …… 1	
工学部創立75周年 記念式典および記念講演会 …… 2	
工学部同窓会 栄誉会員 ……10	
ごあいさつ	
同窓会会長 宮 城 泰 児 ……12	
工学部長 木 下 英 二 ……13	
OBより 田 畑 勝 幸 ……14	
各プログラム・専攻の状況	
機械工学プログラム ……15	
電気電子工学プログラム ……15	
海洋土木工学プログラム ……16	
化学工学プログラム ……17	
化学生命工学プログラム ……18	
情報・生体工学プログラム ……19	
建築学プログラム ……19	
在学生から	
在学生 芹 口 楓 出 ……21	
在学生 福 山 昇 吾 ……22	
在学生 陳 博 ……23	
留学生 郭 書 彦 ……24	
教員の異動 ……25	
部会だより	
機友会 ……26	
錦水会 ……28	
AOI会 ……33	
南窓舎密会 ……40	
しらなみ会 ……44	
稲盛賞・学部長賞他 ……49	
岸園賞 ……51	
進路状況 ……52	
工学部同窓会役員・	
部会各支部役員名簿 ……55	
本部だより ……57	
工学部同窓会諸活動支援報告 ……64	
工学部同窓会学生諸活動助成報告 ……65	
工学部体育祭 ……65	
会則 ……66	
編集後記 ……68	
広告掲載 ……69	

鹿兒島大学工学部創立75周年記念事業期成会 — 活動報告および寄附への御礼 —

期成会は、“記念事業”推進を支援するため、平成30年に部会選出委員による事務局の立ち上げを含む組織作りし、事業資金を確保する募金活動を行ってまいりました。

令和元年に期成会会長、実行委員長、部会長連名の“募金趣意書”を作成し、工学部長と同窓会会長からの寄附金依頼書と合わせて会員・企業の皆様へ発送、同時に部会からも働きかけを行いました。

鹿兒島大学における「進取の基金」に続く二重の寄附金依頼、かつ新型コロナ禍の困難な経済状況下でありながら、募金期間の令和3年6月末までに2千3百7拾万円あまりの浄財が寄せられました。残念ながら目標額には及びませんでした。厳しい経済状態にもかかわらず、皆様方による心からの応援と捉えております。改めてここに衷心より御礼申し上げます。

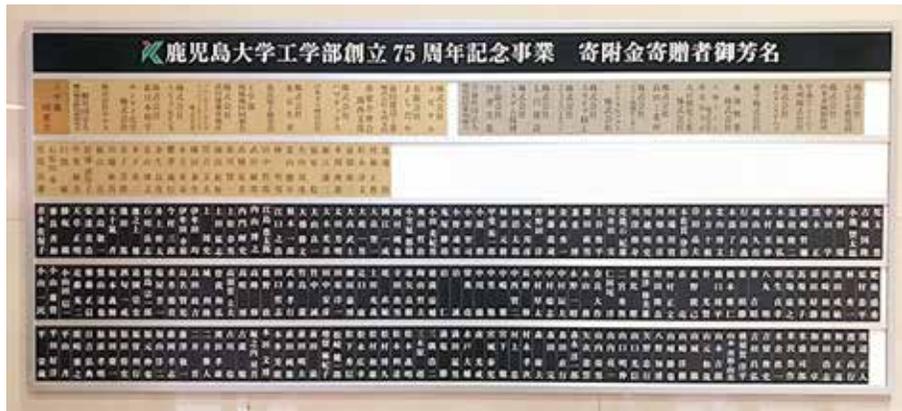
これらの浄財が工学部の発展に寄与できることを願い、現在も続く新型コロナの一日も早い収束を願うと共に、会員、企業の皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

令和3年7月吉日

期成会会長 松永 洋文

鹿児島大学工学部創立75周年記念事業報告

- 鹿児島大学工学部創立75周年記念事業 募金状況（2021年12月6日現在）
募金総額：23,670,000円
募金件数：企業及び団体／37件、個人／573件
支出総額：5,401,683円（記念誌発行、記念銘板作製、記念式典、記念講演会）



【寄附金寄贈者御芳名 銘板（工学部共通棟1階）】

多くの方から御寄附いただきましたこと、心より感謝申しあげます。

○鹿児島大学工学部研究交流基金規則に基づく助成（2020年度）

工学部創立50周年記念事業期成会から受け入れた寄附金を原資として、鹿児島大学工学部研究交流基金が設置され、次に掲げる事業について鹿児島大学工学部運営会議で審議したのち、助成しております。2020年度については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国内外での学会がリモート開催等になったことで、助成がありませんでした。

なお、2018年度は31件3,560,000円（内工学部補填1,060,000円）、2019年度は26件2,540,000円（内工学部補填40,000円）の助成を行いました。

- （1）教育・研究集会開催助成事業
- （2）国内の教育・研究期間等の教職員招聘及び講演助成事業
- （3）大学院学生の国際学会発表派遣助成事業
- （4）その他教育・研究等の交流に必要と認められる助成事業

また、工学部創立75周年記念事業において受け入れた寄附金を原資とするため、「鹿児島大学工学部研究交流基金規則」を「鹿児島大学工学部教育研究支援基金規則」として令和2年11月18日に規則改正を行い、助成事業についても、次に掲げる事業に見直しました。

- （1）研究成果の学術雑誌での発表に関わる助成事業
- （2）大学院学生の海外での国際学会発表派遣助成事業

工学部創立75周年 記念式典および記念講演会

鹿児島大学工学部は2020年に創立75周年を迎えた。6つの事業が企画され、それぞれに小委員会が発足して活動を続けてきた。工学部同窓会もこれに協力すべく、期成会を発足して募金の中心となって活動してきた。その結果、目標とする7千万円には届かなかったものの、約2千万円を集金するに至った。この寄付金額とコロナ禍を考慮して、当初の諸事業を見直し、記念式典と記念講演会を併せて稲盛会館にて挙行することとなり、2021年4月24日（土）に開催された。

記念式典は記念式典小委員会委員長の門川淳一氏（化学生命工学PG教授）の開会の辞により12：30に開始され、まず記念事業委員会委員長木下英二氏（工学部長、機械工学PG教授）から次のような挨拶があった。「鹿児島大学工学部は故岩崎與八郎氏による鹿児島県工学教育へのご寄附を契機として1945年県立工業専門学校として発足し、時代と共に発展し、2020年で創立75周年を迎えた。これまで地域や我が国の教育・研究・社会活動へ大きく寄与し、卒業生も20,000人を越え、その中には稲盛和夫氏（京セラ株式会社名誉会長）など、ご活躍の卒業生も多い。社会変革が進み、大学改革が求められるなか、工学部はイノベーション人材育成に対応するため2020年度に7学科から2学科へ改組し、融合教育・研究や6年一貫教育など、幅広い視野を育てる実践的教育を実現した。鹿児島大学工学部は本地域の知の拠点として重要であり、創立75周年は今後の旗揚げ会とも位置付けられよう。今後も継続的に改革し、地域や国際社会に貢献していきたい。関係各位へ感謝申し上げます。」



続いて、工学部同窓会会長宮城泰児氏（日本ガス住設（株）常務取締役、建築工学科S58卒）から次のような挨拶があった。「工学部および工学部同窓会諸氏へご支援ご協力に対して御礼申し上げます。工学部同窓会は1948年に設立され、現在5部会とその支部から成り、活発に活動している。創立75周年に際して前会長松永洋文氏（大日本コンサルタント（株）技術部長、海洋土木工学科S52卒）を会長として期成会を立ち上げ、各部会の会長および支部長をそのメンバーとして寄付活動を実施し、約2千万円を集金するに至った。皆様に御礼申し上げます。主要事業である『工学研究・海外派遣等助成』等へ有効に使用していただき、工学部が更に発展することを期待したい。」



最後に、実行委員会委員長渡邊 睦氏（情報・生体工学PG教授）から、次のような挨拶があった。「創立75周年の基本方針について松永洋文氏等と相談して以来、集中して業務を進め、無事にこの日を迎えられてうれしく思うとともに、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。会場には創立50周年当時の工学部長前田明夫氏（鹿児島大学名誉教授）にご臨席いただいているが、この75周年が次の100周年への懸け橋となることを期待している。」挨拶の最後に、各小委員会委員および関係事務職員諸氏を紹介して、その労に対して感謝が述べられた。



3氏の挨拶の後にムービーが上映された：これまでの委員会活動・打ち合わせの様子、過去（45年前、25年前）から現在までの学科棟の変遷、記念建造物（工学部マーク、総合研究棟、工場、稲盛会館（1994、稲盛和夫氏寄贈、安藤忠雄氏設計）、稲盛記念館（2018、稲盛和夫氏寄贈）、貢献者の像（梶島二郎氏（工専初代校長）、岩崎與八郎氏（工専設立へ寄附）、歴代の工学部長、高額寄付者の記念銘板の様子、など。

以上をもって13：10、記念式典が終了した。

記念式典に続いて記念講演会が13:25から、記念講演会小委員会委員長の金子芳郎氏（化学生命工学PG准教授）の司会進行兼講演会座長により開催された。外部有識者による基調講演2件、地域へ貢献している学内若手教員による講演2件が行われた。まず記念事業委員会委員長木下英二氏（工学部長、機械工学PG教授）から次のような挨拶があった。「講演会関係各位に感謝申し上げます。創立50周年からこの75周年まで情報通信産業が発展、大規模災害が発生、安全安心で持続可能な社会が求められる時代となり、Society5.0への変革やSDGsなど種々の課題に直面している。地域・国際社会へ貢献する工学部は今後もますます重要となり、その更なる発展の始まりとしてふさわしい講師を本講演会にお招きした。」挨拶の最後に講師諸氏を簡単に紹介して御礼が述べられた。

基調講演の1件目として、科学技術振興機構理事長濱口道成氏

（名古屋大学元総長、文科省科学技術学術審議会元会長、など。国際的な受賞多数）により『日本の科学技術の現状について』との演題で次のような講演が行われた。「JSTは科学技術イノベーションの基礎を作ることを主な業務とし、今後は10兆円規模の資金をも用意すべく活動中である。」この



ようなJST紹介の後、日本の科学技術の現状に関して次のような話があった。「コロナの影響は大きく、科学技術にも新しい

潮流をもたらしている。ワクチン開発などコロナ研究でも大学の役割は大きくなるなか、日本は研究者数や研究費では世界にそん色ないものの業績は第16位である。これには構造的なところに原因がある。日本の論文数は横ばいで、被引用件数の順位は大きく低下している。研究領域に関して日本は分野開拓が悪い、すなわち伝統に固執して新しい領域を開拓できず、国際協調も少ない。これに対して米国は幅広く展開し、中国は戦略的に米国の弱いところを開拓している。他国は社会課題の設定・解決型の研究を共同的に行い、米国などは企業も巻き込みながら、そこからイノベーションへ繋げる体制にシフトしつつある。日本では企業の論文数が6割に減少、ある大学では工学系の論文投稿先が理学系と同じ傾向にあるなど、日本の工学の活力が低下していることが危惧される。日本は、経済規模の大きい半導体・コンピュータは衰退し、自動車・エンジン・鉄・医薬品のみが残り、逆に小規模の材料科学が生まれ、世界の下請け国になっている。日本企業は自社ですべてを済ませようとする。」これらの現状解析から教訓として次のような話が展開された。「1. 将来を予測する。トヨタのハイブリッドカー開発が良い例。今後は現在の大変革の時代を超えなければ世界で戦えない。2. 戦略を絞り込み、投資もしやすくする。過去に縛られずにイノベーションに向かう。3. 産学連携を活発にする。日本企業は日本の大学にも目を向けてほしい。4. イノベーション・エコシステムを構築する。大学の成果の受け皿となる企業を育成し、研究者と企業をつなぐ仕組みを作る。」このような教訓からイノベーション創出のための方針とJSTの姿勢や取り組みが次のように紹介された。「1. 天才型：天才を見出し支援する。若手や女性など多様な人材を育成すべき（教訓5）。ノーベル賞受賞者は若いうちから活躍し、また女性が参入した特許は競争に強い（教訓6）。JSTでは『創発的研究支援事業』を展開している。2. 拠点型：フラウンホーファー研究機構（ドイツ）をモデルとして、JSTでは『COI（センターオブイノベーション）』、『共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）』を展開している。3. 課題解決型：JSTでは『ムーンショット』を展開している。その他、地域・人に寄り添う科学技術という視点から『災害復興プログラム』を展開している。最後に、Scienceとは“for all people, for well-being, for the future”である。」詳細な現状分析と示唆に富む教訓、それに基づく今後の姿勢と、身の引き締まる講演であった。質疑応答では、「地方大学が産学連携するためには？」に対して「大学内にコンサルタントが必要」、「複数企業が入ったコンソーシアムを活発にするためには？」に対して「JSTでも共同で一つの組織を作るようお

願っているプロジェクトもある」、「若手の育成法は？」に対して「フランホッファー研究機構では大学院生に給料を支給、JSTも博士課程6000名分を準備中、など」が語られた。

基調講演の2件目として、ニスモアンバサダ 柿元邦彦氏（鹿大工機械工学第二学科S43卒、日産レーシングチーム元総監督、ニスモ元スーパーバイザー、東海大学工学部元教授、など、執筆多数）により「天知人 運・不運に翻弄されて」との演題で次のような講演が行われた。「日産に入社して以来、車の競争という世界に身を置き、日本で最高峰のカーレースであるスーパーGTに日産からGTRで参戦し、そこで技術者およびチーム統括として働いてきた。レース走行中の衝撃の吸収、火災への対応法など、ドライバー保護の技術を進め、安全技術を進歩させてきた。車体の素材を研究し、カーボンコンポジットやチタン合金などで軽量化を実現してきた。レースでは燃料/時間が決められているので、エンジン（2000CC、700馬力）を効率化する必要がある、希薄燃焼のためにディーゼルエンジンの副燃焼もどきも使って、熱効率50%（一般車は30%）を達成してきた。タイヤの素材や形態を研究し（晴れ用は溝なし、雨用は溝あり）、また空力開発、風洞試験、シミュレーションなどを用いた流体力学的研究から、空気を利用して車体を押し付けて接地力を大きくする手法を開発してきた。タイヤの粘着力は温度でも変わるので（表面最適温度は80℃）、気象予報会社と提携して現場にてリアルタイムで情報を得つつ、経験なども総動員して気象を予測し、空気圧などを調整した。ここまで技術・調整・準備を尽くしても、予測が外れてタイヤ調整に失敗したり、跳ね飛んだタイヤ粕がエンジンを止めたり、ゴール直前でガス欠になったり、といった不運に見舞われた。逆に、最後尾からのスタートで奇跡的（計算では3%）に優勝したり、と運に恵まれることもあった。」このような体験から、運・不運もある勝負の世界に氏がどのように臨んできたかが次のように語られた。「①孟子の戦勝に対する『天の時、地の利、人の和』を拠り所に、『天（＝運）』として人事を尽くして天命を待つのではなく、ケーススタディを多くやって十分に予測すれば、天命は取れると信じる。『地（→知）』として専門・分業化を尽くし、かつ知識や経験を高める。『人』として多様な人たちを同じ方向に向かわせる。②政治など様々な要素が関わるが、結果が全てという覚悟で振る舞うとともに、プロセスも大切に（ドライバーへの配慮など）。③楽観的である。このような姿勢が勝率50%という少しだけ幸運寄りの結果をもたらしたと考える。」講演の最後に努力は必ず報われることを力説して、学生へエールを送って講演が終了した。カーレースの貴重な技術的な話題を含め、同氏の仕事・人生に対する揺るぎない姿勢が骨子となって展開された講演であった。質疑応答では、「レーシングカー技術の一般車への還元は？」に対して「現在は軽量化技術くらいであり多くない、昔はディスクブレーキやターボエンジンが還元された」、「今後のモータースポーツは？」に対して「モータースポーツにとって音・匂いは魅力的であり、水素エンジン化が一つの方向性だろう」、「組織トップの心構えについて」に対しては「チームをまとめるためには適材適所を」、などが語られた。

座長を記念講演会小委員会副委員長の岡村純也氏（情報生体工P G准教授）に交代して16：00から学内教員による講演が行われた。1件目として、片野田 洋氏（機械工学P G教授、専門：超音速流体力学、ロケット推進）から「鹿児島ハイブリッドロケット研究会の取り組み」との演題で次のような講演が行われた。「プロジェクトの発端は、①超小型人工衛星プロジェクト（KSAT、2015年に中断）に代わるプロジェクトを立ち上げたかった、②専門が近い、③ハ



イブリッドロケットの研究が盛んになった、④地域に貢献できる。ハイブリッド型（燃料が固体高分子化合物、酸化剤が液体）は推進力に難があるが安全性に優れる。目標は、燃料にアクリルとパラフィンワックス、酸化剤に液体酸素を用いて、超小型人工衛星を打ち上げること。」ここでエンジン燃焼の様子がムービーで上映された。「初号機は2年前にエンジンの点火がうまくいかずに飛行高度20 mと失敗したが、2号機は2020年12月に打ち上げ、到達高度500 m以上と大成功であった。」ここで2号機打ち上げの様子がKKBの動画配信ムービーで上映され、ランチャーから勢いよく飛び出す姿が印象的であった。「これまでに取材報道を多数いただいた。2号機で打ち上げた模擬人工衛星等を研究会メンバーの（株）宙（そら）の駅がネット販売して開発資金の一部としており、奨学寄附金も約643万円を頂いた。県内企業で加工製作をおよそ行い、肝付町やJAXA等の協力も得て、地域へ貢献する産学官プロジェクトとなってきた。将来的に1 kg以下の超小型人工衛星を軌道投入すべく、3号機を開発中である。KSATに続くプロジェクトとしたい。」質疑応答として、「教育的配慮は？」に対して「学生のアイデアを大切にしている。工程管理も任せている。」「固体ロケットの推力のコントロールはどのようにしている？」に対して「燃料の内部デザインによって制御されるのみ。」などが語られた。

学内教員による講演の2件目として鷹野 敦氏（建築学PG准教授、フィンランドのアールト大学修了、受賞多数）から「産学協同で取り組む『こどものけんちくがっこう』」との演題で、まず冒頭、活動の様子がムービー上映された後、次のような講演が行われた。「演題になっている『こどものけんちくがっこう』とは学生（20～30名）と社会人（7名）が先生となって産学協同で行う、小3～中3の子供たち（50名、国外に30名）が建築を学ぶ習い事のようなもの。現在4つから構成されている。①定期授業（月2回（土）2時間）として、手で学ぶ（木工細工、建築模型作成、など）、頭で学ぶ（森林や製材所に行って材木→建物→町という変遷を学ぶ、など）。②夏季課外授業として、実際に建物を作る、しかも注文をもらって子供達がゼロから作る。③体験授業として、イベントにブース出展する。④オンライン授業として、遠隔で指導して工作させる、世界の家を見てもらう、など。活動を起こした動機は北欧に8年間住んだ経験から、ヨーロッパは街並みがきれいなのに日本は必ずしもそうでないことを残念に思ったこと。その原因は市民の意識の違いであり、日本でも街並みをきれいにするには市民が建築に関心を持つことが必要と考えた。未来の人材を育てるプラットフォームになってきたと感じる。大学生にも自からの学びになっていると思う。後継者や同調してくれる人を期待している。」質疑応答として、「自主性が育つか？」に対して「友人が増える。高校になった子がTAを申し出た。」「教え方として気を付けていることは？」に対して「むしろ積極的には教えないようにしている。失敗もOKとの立ち位置でいる。」



講演会の締めくくりとして17:00から、実行委員会委員長渡邊 睦氏（情報・生体工学PG教授）から次のような閉会の挨拶があった。「鹿大の課題は何？に対して講演にヒントがあったのではないか。ZOOM参加者約50名、youtube参加者約100名、会場来場者約50名、寄附金2144.5万円（企業31件、個人518件、2021年4月現在）。創立50周年から建物・人員・工学部の構造など大きく変化したが、変わらないものは我々の鹿児島大学工学部への気持ちであり、次の100周年へ向かって発展させていきたい。」

最後に記念写真撮影により全日程を終了した。

（文責 吉留 俊史 S60応化卒）

記念式典および記念講演会の写真



2021年4月24日（土）当日



木下 英二 工学部長（75周年記念事業委員会 委員長）



宮城 泰児 同窓会会長



渡邊 睦 鹿児島大学副学長（75周年記念事業実行委員会 委員長）



実行委員メンバー紹介



実行委員メンバー紹介



実行委員メンバー紹介



実行委員メンバー紹介

記念式典および記念講演会の写真



実行委員メンバー紹介



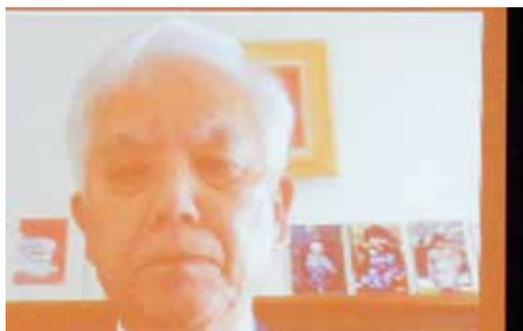
実行委員メンバー紹介



記念式典司会 門川 淳一 教授



講演会司会 金子 芳郎 准教授



講演者：濱口 道成 氏 (科学技術振興機構 (JST) 理事長)
「日本の化学技術の現状について」



講演者：柿元 邦彦 氏 (NISMO アンバサダー)
「天地人 運・不運に翻弄されて」



柿元 邦彦 氏 (NISMO アンバサダー)



研究紹介司会 岡村 純也 准教授

記念式典および記念講演会の写真



研究紹介 片野田 洋 教授（先進工学科機械工学プログラム）
「鹿児島ハイブリッドロケット研究会の取り組み」



片野田 洋 教授



研究紹介 鷹野 敦 准教授（建築学科建築学プログラム）
「産学協同で取り組む「こどものけんちくがっこう」」



鷹野 敦 准教授





鹿児島大学工学部創立75周年
記念式典・講演会

令和3年4月24日(土)
オンライン (Zoom・YouTube Live) 開催

12:30-13:30	記念式典	挨拶 工学部員・記念事業委員会委員長 木下 真二 挨拶 工学部同窓会会長 宮城 雅夫 挨拶 実行委員会委員長 渡邊 隆 記念講演等の紹介
13:35-13:50	開会挨拶	工学部員・記念事業委員会委員長 木下 真二
13:50-14:20	講演(第1)	演者 鷹野 敦 建築学科建築学プログラム 准教授 日本経済技術の現状について 高橋 謙彦
14:25-15:05	講演(第2)	演者 片野田 洋 先進工学科機械工学プログラム 教授 天知人 謙・不慮に翻弄されて 宇内 新助による研究開発紹介
15:00-15:30	講演(第3)	演者 片野田 洋 先進工学科機械工学プログラム 教授 鹿児島ハイブリッドロケット研究会の取り組み
15:30-17:00	講演(第4)	演者 片野 敦 建築学科建築学プログラム 准教授 産学協同で取り組む「こどものけんちくがっこう」 開会挨拶 実行委員会委員長 渡邊 隆
17:00-17:00	閉会挨拶	実行委員会委員長 渡邊 隆

主催：鹿児島大学工学部

記念式典・講演会ポスター

記念式典および記念講演会の写真



来賓者 於：稲盛会館



75周年記念式典・講演会后 実行委員および講演者の皆様

工学部同窓会 栄誉会員

令和2年度工学部同窓会総会にて「会則第4条 栄誉会員：本会に対して特別の貢献のあった正会員で、総会の決議により推薦されたもの」が新設され、稲盛和夫氏、岸園司氏の2名が推挙され、承認されました。栄誉会員については工学部構内にパネルを設置し、会員、学生をはじめ多くの皆様へ広く紹介して参ります。

工学部同窓会 栄誉会員

稲盛 和夫 氏



昭和30年松風工業に就職、新しい電子材料の開発で京セラ株式会社の前身の京都セラミック（株）を起業された。その後特別な経営方針と運営の基多くの優れた製品開発を行い、称賛される大企業に育てられ、現在京セラ名誉会長にあられる。

また善と利他の心からKDDIの創業、日本航空の再建等を行い、一方で私財を投じて稲盛財団そして京都賞を創設され、ミリオンセラーの「生き方人間として一番大切なこと」などの多数の玉書や、山中伸弥教授等との対談書で、人生や仕事のあり方、また太陽光発電等の科学技術普及による世界平安の指針が示されている。

太陽光発電協会初代代表や日本セラミック協会会長などを歴任、紺綬褒章や名誉大英勳章などを受章。

工学部においては昭和40年初めより学生への稲盛奨学基金の給付、今日では稲盛学生賞や稲盛アカデミー講座による人間力の総合的育成支援、また本学には稲盛会館や稲盛記念館寄贈、多額醸金での研究教育支援を頂いている。その経過と功績は、鹿児島大学工学部五十年史（1995）、南窓舎密会設立五十周年記念誌（2012）、鹿大ジャーナルNo. 209（2018、大学HP）と稲盛様立像（2017）そして稲盛記念館3Fライブラリー（2020）等で一層知ることができ、その教えは座右の銘にし、研鑽したい。

（昭和39年卒 名誉教授・前南窓舎密会会長 染川賢一）



紹介パネル
工学部共通棟 1F エントランス

工学部同窓会 栄誉会員

岸園 司 氏



オイレス工業株式会社の前進である「日本オイルレスベアリング研究所」に就職。取締役社長、代表取締役社長、最高顧問を歴任。その間、東証一部上場に至るまでに会社の発展に貢献。社外でも社団法人発明協会東京支部評議員、社団法人日本商工倶楽部常任理事、社団法人日本免震構造協会副会長の役職に就く。2000年には自動車用特殊ベアリング技術の開発と育成に対する貢献で科学技術庁長官賞を受賞、2001年には藍綬褒章を受章。

工学部同窓会においては2006年に第9代同窓会会長に就任。以降、母校に対する強い愛情を胸に、鹿児島大学発展の環境作りを手掛けられ、東京での鹿児島大学産学官連携情報発信シンポジウムの開催に向けて尽力された。また、工学部関東合同同窓会や鹿児島大学同窓会連合会の関東支部設立にも尽力された。

工学部および工学部同窓会の発展を常に願われていたが2008年に急逝。その後、氏のご意思を継ぎ、岸園敏子夫人がご寄附くださり、それを基に2010年に「岸園賞」の創設が決定。幅広い分野の会員を対象とし成果・功績を讃えることとなった。さらに2013年から、「司会」が執り行われ、同窓生を中心に研鑽を深めている。

(昭和29年卒 第十代同窓会会長
鹿児島大学同窓会連合会関東支部長 今村彬)



同窓会会長を拝命に際し

工学部同窓会会長（建築58）
宮城 泰児

昭和58年建築学科卒の宮城泰児と申します。2021年4月より、この大役を拝命し分不相応とは思いつつも工学部同窓会ひいては、鹿児島大学同窓会連合会の隆盛にお役に立てるように任期3年間、粉骨砕身、努力して参ります。鹿児島大学工学部は、1945年4月に鹿児島県立工業専門学校として設立され、1949年2月の鹿児島県立大学を経て、1955年7月に国立大学に移管され、2020年で創立75周年となりました。この間、卒業生は2万6千人を超え国内外で広く活躍されております。南九州、さらには九州、日本全国において、産業、行政、学術における産官学の拠点となり情報を発信していることは大変誇らしい限りであります。このたび、多数の同窓生の中よりその輝かしいご功績等を称え、工学部同窓会栄誉会員の称号が創設され、同窓会総会の全会一致で受賞者が決定いたしました。受賞者は、「京セラ株式会社名誉会長稲盛和夫氏」、「オイレス工業株式会社前最高顧問岸園 司氏」の2名であります。これを記念し、この11月に工学部共通棟1階ホールに、2名のパネルを展示させていただきました。

創立75周年記念事業

鹿児島大学工学部創立75周年記念事業の実行委員会が立ち上がり、当初様々な記念行事が計画されておりましたが、今般のコロナ禍により2021年4月24日に記念式典を縮小し、参加人員を制限、Webをメインとした遠隔開催と相成りました。記念式典・講演会の開催に際し、その中核をお支え頂いた実行委員会、また各学科の同窓会の機友会、錦水会、AOI会、南窓舎密会、しらなみ会の5学科同窓会の理事の方々、一般同窓生の方々には、大変お世話になりこの場を借りて御礼申し上げます。ここに成功裏に終了致しましたことをご報告申し上げます。

反省後記

大学を卒業して約40年間、大過なく人生を送れたことの礎はやはり学生生活にあるのだと考えます。今なお旧交を温められる友と酒を酌み交わしながら、お互いの歩んできた道を取り止めもなく披露しあうことは、歳を重ねたことの楽しみの一つとなりました。若い頃より目標をもって懸命に生きてきたものだけが味わえる感慨深いものが何かしらあるのだろうと漠然とっておりました。それは「坂の上の雲」だったのかもしれませんが。今となっては生涯現役を続けることもそう悪くないかなと考えるようになりました。

一番良き時代？大量生産、大量消費の時代を生き抜き挙句の果てに、地球温暖化や気候変動など、将来への子孫末裔に禍根を残すことなく生を全うしたいと考える今日この頃です。くしくもエネルギー会社に長らく勤務し、今また住宅会社に勤務したことは、何か因果なものを感じます。今後もアンテナを張り、正しい情報をキャッチし、自分なりに加工、咀嚼し世のため人のために役立てていきたいと考えます。

工学部創立75周年記念事業は、平成29年から工学部同窓会と連携して活動を行い、関係各位のご尽力により、この度、無事に終了致しました。コロナ禍のため、祝賀会は中止となりましたが、令和3年4月24日に規模を縮小して対面とリモートのハイブリッド形式にて記念式典・講演会を開催し、盛会となりました。また、記念銘板を工学部共通棟1階に設置し、6月30日には記念誌「鹿児島大学工学部七十五年史」を発行しました。寄附金は、コロナ禍の厳しい社会情勢もあり、目標7,000万円には遠く及びませんでした。卒業生並びに企業等から約2,300万円のご寄付を頂くことができました。この寄附金は主に工学研究・海外派遣等助成に有効に活用致します。本記念事業は、当初の目的を達成することができ、100周年への懸け橋になったと考えております。卒業生の皆様をはじめ、関係各位の皆様の本記念事業へのご支援・ご協力に対しまして、心より感謝申し上げます。

令和2年から現在までの約2年間、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、卒業式・入学式の中止、遠隔授業の実施など、工学部もコロナ対応に追われましたが、教職員一丸となって何とか教育研究活動等を行って来ました。全学では令和2年度に鹿児島大学稲盛和夫基金や「進取の精神」支援基金から修学支援金の学生への給付が行われました。工学部では従来から学生相談員制度があり、コロナ禍においても大学院生による新入生に対する学修・学生生活に関する相談という支援を行っています。令和3年11月の現時点では、国内における新型コロナウイルスの感染状況は一先ず落ち着きを見せておりますが、新たな変異株の出現など、以前の日常を取り戻すことは簡単にはできない状況です。

来年度から第4期中期目標期間（令和4～9年度）が始まり、国立大学法人の再編成（1法人複数大学、学生定員の規模の適正化など）が本格化すると予想され、鹿児島大学工学部も厳しい競争にさらされます。また、コロナ禍のためSociety4.0への社会変革が加速しており、教育研究分野においてもDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進が望まれています。このような状況の中、Society4.0及びウイズコロナ対応型の新たなる教育研究の取り組みを行うことによって、これまで以上に優れたイノベーション工学系人材の育成を行い、地域及び国際社会に貢献できる学部を目指したいと思います。卒業生の皆様には、今後とも変わらぬご支援・ご協力をお願い致します。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご健康とご多幸、工学部同窓会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



工学部創立75周年記念事業
を終えて
コロナ禍の中での新たな挑戦

工学部長

木下 英二



同窓会の皆様におかれましては、コロナ禍からの経済活動の本格的な回復の中、様々な分野でご活躍されていることと拝察致します。

私は、工学部海洋土木工学科を卒業し、理工学研究科海洋土木工学科へ進み2014年に修了致しました。在学中は、2013年にご退職されるまで北村良介先生に、その後は酒匂一成先生にご指導頂き、誠にお世話になりました。

修了後は、生まれ育った故郷である鹿児島を離れ、西日本旅客鉄道株式会社に入社し、富山駅付近連続立体交差事業や、都市高速鉄道などにわ筋線の事業計画（土木構造物）に従事しました。現在は、鉄道総合技術研究所へ出向しており、鉄道コンクリート構造物に関する技術基準の策定、熊本地震において損傷した鉄道橋りょうの損傷原因の究明や、損傷抑制手法の開発について研究を行っています。大学時代は、土木の知識が世の中の何に役立つのか具体的なイメージが出来ていませんでしたが、今では鉄道や道路等の社会インフラとして人々の生活を裏で支える重要な役割を担っていることを実感するとともに、その一端を担う技術者としての誇りと責任感を日々感じています。

就職して8年が経とうとしており、諸先輩方と比べると短い社会人生活で何を言っているんだとお叱りを受けそうですが、仕事をしていると自身の未熟さ故に、失敗を重ね、多くの壁にぶつかります。気持ちが減入ってしまいそうになることもあります。そのような時には、恩師である北村先生から懇親会の度に教えて頂いた旧大日本帝国海軍の海軍兵学校で用いられた【五省】をよく読み返し、自分の行いを振り返り、気持ちを奮い立たせています。せっかくの機会ですので、この場をお借りして紹介させて頂ければと思います。

- 五省
- 一. 至誠に悖（もと）るなかりしか
 - 一. 言行に恥ずるなかりしか
 - 一. 氣力に欠くるなかりしか
 - 一. 努力に憾（うら）みなかりしか
 - 一. 不精に亘（わた）るなかりしか

文章の意味については、是非調べて頂きたく思いますが、どんな仕事も、頭の良し悪しより、人としての善し悪しを意識して取り組むことが重要だと、短い社会人生活ながらに感じています。仕事への姿勢の軸を教えてくださいました北村先生に感謝申し上げるとともに、この言葉が後輩の皆様方への何かしらの参考となればと思います。

末筆ではありますが、同窓会の皆様の益々のご健勝、ご発展を心よりお祈り申し上げます。

鹿児島大学理工学研究科海洋土木工学科
2014年修了
西日本旅客鉄道株式会社
（鉄道総合技術研究所 構造物技術研究部）
田畑 勝幸
出向中

各プログラム・専攻の状況

機械工学プログラム

プログラム長 佐藤 紘一

今年度の機械工学プログラムの近況について、ご報告いたします。現在の学部の学生在籍数は、令和3年11月1日現在で、学部1年生94名、2年生106名、3年生108名、4年生108名の合計416名です（内留学生9名、女子学生31名）。大学院の学生在籍数は、博士前期課程が104名で、博士後期課程が3名となっています。

現在の教員数は21名（教授9名、准教授8名、助教4名）です。分野別では、生産工学分野が7名、エネルギー工学分野が6名、機械システム工学分野が8名となっています。

教員の学内活動としては、木下英二教授が学部長として、松崎健一郎教授が学部入試委員長として活躍されています。研究活動としては、熊澤典良准教授、上谷俊平教授がコンピュータ利用教育学会において「論文賞」を受賞しました。また、西村悠樹准教授が計測自動制御学会の制御部門において「システム制御理論 真なる次世代開拓者賞」を受賞しました。また、片野田教授が設立した鹿児島ハイブリッドロケット研究会が、小型ロケット3号機の打上げに向けて活動を続けています。競争的研究資金獲得状況は、今年度科学研究費補助金の新規採用が2件、継続採用などのその他が5件でした。

学生の動向としては、小金丸研究室の学生がスマートプロセス学会 エレクトロニクス生産科学部会 エレクトロニクスにおけるマイクロ接合・実装技術シンポジウムにおいて「Mate 2021 優秀発表賞」を受賞しました。就職状況についても、ほぼ100%の就職率を達成できる見込みです。

機械工学プログラムの今後の発展のためには、同窓会会員の皆様のお力添えが不可欠です。今後ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

電気電子工学プログラム

プログラム長 山本 吉朗

令和2年4月1日に、電気電子工学科は先進工学科電気電子工学プログラムに、電気電子工学専攻は工学専攻電気電子工学プログラムに改組され、令和3年10月1日現在、学部生328名（留学生7名、女子学生13名）、博士前期課程学生96名（留学生2名、女子学生0名）が在籍しています。教員は令和2年度同様、教授8名、准教授9名、助教5名、合計22名体制で教育と研究に取り組んでいます。

教育については、依然として新型コロナウイルスの影響が続いており、令和2年度に比べれば落ち着いてきてはいますが、一部の授業はリモート、あるいは対面とリモートのハ

イブリッドで行われています。また、学生実験は、説明などリモート実施で問題のない内容のものと実際に手を動かして行うものとを切り分けてハイブリッドで対応しています。

同窓会の皆様には、例年、学生への教育研究支援事業である「新入生ウェルカムパーティ」、「きばっど会」などで多大なるご支援をいただき、心から感謝いたします。昨年度および今年度はコロナ禍のために「新入生ウェルカムパーティ」は実施できませんでしたが、「きばっど会」は、講師に電気電子工学専攻平成18年修了、東貴彦氏（パナソニック株式会社）、電気電子工学科平成3年卒業、中津川勇二氏（株式会社ダイヘン）のご両名をリモートでお迎えして開催され、有意義なお話を伺うことができました。「きばっど会」終了後には、「カリキュラムに関する外部連携会議」もリモートで開催され、学科の学習・教育到達目標、カリキュラムなどについてご意見を伺いました。

就職につきましては、コロナ禍中ではありますが、おかげさまで、今年度も所属学生の就職率100%が達成できる見込みです。これからも社会に貢献できる人材の輩出に向けて教職員一丸となって努力してまいりますので、同窓会の皆様におかれましては、変わらぬご支援とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

海洋土木工学プログラム

プログラム長 山城 徹

海洋土木工学プログラムの近頃を紹介します。本プログラム（PG）には令和3年12月現在で、教授4名、准教授6名、助教3名の計13名の教員が在職しています。教員の動向については、山口明伸先生が令和3年4月に理工学研究科長に就任され、研究科の舵取りを精力的に行っています。令和2年7月に酒匂一成先生が教授、令和3年4月に加古真一郎先生が准教授に昇任されました。小池賢太郎先生は令和3年4月からクロスアポイント制度を活用し大学と港湾空港技術研究所の下で業務に従事されています。教員は教育、研究、管理運営に真摯に取り組んでおり、木村至伸先生は令和2年度鹿児島大学ベストティーチャー賞を受賞されました。また、名誉教授の武若耕司先生は令和2年度の土木学会功績賞を受賞されました。学生の動向については、令和3年3月に学部生52名が卒業、院生10名が修了しました。新型コロナ禍中でありましたが、ほぼ全員が無事に進学、就職できました。学生の研究活動では、土木学会や地盤工学会などから優秀講演賞が授与されました。

大学が新規財源による教育研究環境の改善を図る目的で導入した、ネーミングライツを活用し、令和3年12月の時点で、卒業生の勤務される12企業様から財源支援を頂き、現在、海洋土木工学棟の環境整備を進めています。ネーミングライツによる財政的支援をご検討頂ければ幸甚です。また、卒業生の勤務先企業様から新規の机椅子、掲示板、パソコン・周辺機器等を寄贈して頂きました。

今後も教員が一丸となり、本PGの特色と伝統を活かした、優秀な海洋土木技術者の育成に努めて参ります。令和4年度にはJABEE認定継続審査を受け、教育プログラムの外部評価を行う予定です。改組、新型コロナ禍の中で教育体制を大きく変化させていますが、教育の質と量の維持には努めて参りました。卒業生の皆様には、今後とも本PG学生の育成にご協力をお願い申し上げます。

化学工学プログラム (旧 環境化学プロセス工学科) プログラム長 二井 晋

令和2年度の改組により環境化学プロセス工学科は化学工学プログラムへと名称を変更し、全国でも数少ない、化学工学の名前を冠する組織となりました。令和3年度は専任教員9名(教授4名、准教授2名、助教3名)の体制でスタートを切り、異動はありませんでした。甲斐敬美教授は2022年の3月で定年を迎えられる予定で、今年度が甲斐教授の最終年度となります。また、永年にわたり我々の運営や研究にご支援をいただいている、大角義浩技術職員も3月で定年を迎えられ、節目の1年となっています。

プログラムの体制には変化があり、これまでの旧「講座」が一新され、各教員による9研究室として研究と教育を行っています。大学院では申請に基づいて、助教の先生が大学院学生を主担当して指導できることになりました。教員は研究内容や研究テーマにより、他の研究室と連携して研究や教育を行い、柔軟な環境で教育と研究の活性化をはかっています。

これらの他にプログラムの近況として大きな動きはありません。4月から9月までの前期はウイルス感染対策を取りながら、多くの対面講義と研究室活動を行うことができました。首都圏での非常事態宣言により、就活学生にとってはオンラインでのインターンシップや面接となり、大変苦勞することとなりました。研究では、9月までのほぼすべての学会がオンライン開催となり、学会の果たす大きな役割である人の交流が大きく制限されました。この困難な中でも、化学工学会の年会と化学工学会九州支部の審査会で大学院生が受賞したことは大きな喜びです。詳しくはプログラムのホームページをご覧ください。

他機関との共同研究も、全ての打ち合わせがオンラインとなり、時には実験装置や実験の様子を中継で知らせるという不自由な状況でした。10月以降は感染状況も落ち着いてきましたが、学内で多くの人を集めるイベント、大学祭は規模縮小で学内関係者のみによる参加が許され、飲食物の提供が禁止される状況での開催でした。近年プログラムで実施している、高校生に向けた化学工学プログラムのオープンキャンパスも中止せざるを得なかったのは残念でした。11月以降は対面での学会も行われるようになり、首都圏との往来も増えてきました。新たな変異ウイルスも心配ですが、明るい兆しは見えてきました。学生の

就職活動も次第に活発になっており、昨年よりも自由度は高まっています。化学工学を学んだ学生への企業の求人倍率は、約5倍と大変高く、卒業生の皆様が挙げられた実績の賜物であると感謝しています。南九州の地元や全国の企業と連携を深め、未来を切り開く若者を社会に送り出しますので、卒業生の皆様にはこれまで同様にご支援いただきますようお願い申し上げます。

化学生命工学プログラム

プログラム長 門川 淳一

令和2年に工学部が改組され、化学生命工学科が先進工学科化学生命工学プログラムになって2年目を迎えました。改組に伴いカリキュラム等の変更はありましたが、教育・研究方針は従来と同様に「化学」をキーワードとしており、有機化学、物理化学、分析化学、環境化学、バイオテクノロジー、材料化学などを専門とする教員によって運営されています。現在の教員構成は、教授4名（石川、門川、隅田、橋本）、准教授6名（上田、金子、高梨、中島、山元、吉留）、助教4名（新地、橋口、満塩、若尾）の14名です。令和4年3月末をもって隅田泰生教授がご退職されますが、学内に共同研究講座を設置し研究を継続される予定です。また、名誉教授の肥後盛秀先生が2021年度日本分析化学会功労賞を受賞されました。

本プログラムの教員・学生は、従来から活発に研究活動を行い積極的に国内外の学会や学術雑誌に成果を発表してきました。新型コロナウイルス禍においても、できるだけモチベーションやアクティビティを下げることなく活動を行ってきた結果、本年度は、大学院生が複数の学会でポスター賞を受賞しています。また、教員もオンラインの国際学会で招待講演を行うなど、研究成果の積極的な対外発信を継続しています。さらに、本プログラム教員が中心となり、8月には第35回日本キチン・キトサン学会大会、10月には第40回日本糖質学会年会を運営するなど、学会運営にも積極的に参画しております。

本プログラムは大学院に英語コースを設けており、グローバル人材育成にも積極的に関わってきました。その一環として、日台米の国際シンポジウム（Joint Symposium of JTBW2021 and KNJS 2021）を11月にオンラインで開催しました。今後も継続して活動を行っていく予定です。

卒業生の皆様には、ますますのご活躍を祈念いたしますとともに、本プログラムへの変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

情報・生体工学プログラム

プログラム長 王 鋼

情報・生体工学プログラムは、現在、学部定員80名、博士前期課程定員42名を有する組織です。4月から教授として松元先生が着任され、また、鹿嶋先生に加えて岡村先生も准教授昇任されました。今年度は、教授6名（内山、小野、松元、吉田、渡邊、王）、准教授6名（大橋、岡村、加藤、鹿嶋、淵田、吉本）、助教2名（福元、山下）の計14名の体制で教育研究に取り組んでいます。3月に渡邊教授と内山教授が定年退職の予定です。現在、教授2名と准教授1名を迎えられるよう公募をしています。「情報」と「生体」をキーワードに、情報・生体工学プログラムでは、将来の高度情報化社会を支える基盤技術である情報通信関連技術において、人と環境に優しい社会の実現のため、人との親和性の高いコンピュータ技術の修得、および人間の認知過程や生体システムの本質も理解した情報生体システム技術者の育成と、そのための研究活動の実践を行っています。本プログラムは、情報システム工学、脳認知工学、生体計測工学の3つの教育分野から構成され、コンピュータやネットワークなどの情報システム工学や情報生体工学に関する総合的な教育を行っています。また、マルチメディア、インターネット、量子コンピュータ、画像処理、生体情報処理を含む幅広い領域で、新規な情報技術に関する基盤研究と応用研究を進めています。

卒業生は、エレクトロニクス産業や情報産業、また、医用電子機器メーカーなどの生体関連産業といった分野だけにとどまらず、官公庁を含む幅広い分野で活躍しており、大学院進学者も多数います。学生の就職状況はおかげさまで好調で、就職率ほぼ100%が達成されています。これも、同窓会の皆様の日頃のご努力の賜物であり、感謝いたしております。これからも益々のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

建築学プログラム

プログラム長 鯨坂 徹

コロナ感染対策で、2020年度より、授業も多くが遠隔授業となり、大学も大きな影響を受けました。2021年6月から鹿児島大学の学生・教員・職員を対象とした職域摂取が開始され、鹿児島の感染状況が落ち着きはじめ、2021年後期授業からようやく対面授業が増え、この2021年11月頃からようやく以前の状況に近づきつつあります。2020年4月に入学した学生は、友人をまったくつくることができず、精神的に追い詰められる学生も見られました。この間、教室での定員が1/3前後に制限され、一時はほぼ全ての授業がZoomを利用した遠隔授業となり、設計課題のエスキスも遠隔で実施せざるを得なくなりました。製図室も学生に十分に解放できない状況で変則的な利用が続いており、学生間での情報コミュニ

ケーションに支障が生じています。講評会・講演会や学外研修、出張は厳しく制限され、2年生最後に例年実施してきました関西研修は実施を見送りました。私的な県外への移動も制限されていたので、学生達が実際の建築を見て体験する機会が得られていません。当然、卒業研究や修士課程をはじめとする研究活動にも大きな影響があり、実験や調査が滞り、目標としていた成果にたどりつけないケースも生じています。

教員構成は、本間俊雄教授が3月末で退官され、教授が1名減となり、教授5名、准教授5名、助教3名となりました。本間俊雄教授の退職記念最終講義「研究生活43年と出会い」は2021年2月20日にWEBでの講義となり、残念ながら退官記念パーティすら開催することができませんでした。昨年の塩屋教授の報告にありましたように、現在は、コロナ禍におきましても、授業の休講もできず、半期、15回は必ず授業を実施し、成績評価の証拠も残して学科教育の外部評価を受けています。学科への予算も激減しており、大学の研究教育活動はますます厳しい環境になっています。特に構造系の教授が一人となり、教授2名、准教授2名、助教1名だった構造の教育体制が、教授1名、准教授2名の3名体制で進めざるを得ず、今後の構造分野の研究教育に大きな不安があります。

一方、本学科は、昨年の改組でも、幸運にも建築学科として、その学科名を残すことができ、工学部では、高い入試倍率で人気が続いた女学生も多い学科となっています。学部の定員は55人のままですが、大学院への進学率が高まり、博士前期課程（修士）の定員が25人から5人増え、2022年度から30人となりました。これは就職の募集が学士から修士に移行しつつあることが影響していると思われるのですが、海外の建築教育が基本的に5年以上になっており国際化の流れにも沿うものになりつつあるようです。一方、一級建築士受験資格が変更となり、学部を卒業すると実務経験を経ずに一級建築士試験を受験できるようになりました。就職に有利になるのではと修士在学中に受験に挑戦する学生が見られますが、資格学校の授業料・授業時間が修士の学生生活に悪影響を与えております。社会で活躍されている卒業生の皆様には就職募集の際の可否に一級建築士試験結果の有無を配慮しないようお願いしたい所です。

大学内の教員では気が付かないことも多々あるのではと想像しております。AOI会の総会や懇親会または行事には是非ご参加いただき、その際にご遠慮のなく意見を出していただき、参加している教員に伝えていただければと思います。学科のホームページには、卒業生が書き込めるサイトがありますので、ご連絡いただければと思います。

私は来年度いっぱい退官の予定で、これが最後のお便りとなるかと思っております。コロナ禍での学科の状況について私見を交えて書かせていただきました。卒業生の皆様には、今後も変らぬご支援をお願いいたします。



在学から

「日々是鍛錬」

建築学科4年
芹口 楓出

私は、大学入学前「頼られる人間になる」という目標を立てました。卒業後、社会に出ることを想像した時、社会に求められる人材になることが重要だと考えていました。その理由は、いつも準備してもらおう境遇にあったからだと考えています。そのため、これからは頼られる側になりたいと自然に思うようになっていました。

実際、高校まではいつも友人に勉強を教えてもらうなど頼ってばかりでしたが、大学では、嬉しいことに頼られる側になれた気がします。そうなれたのも、日々準備をしていたことがこのような結果に繋がったと思います。私は臨機応変に対応できるタイプではないので、小さなことでもある程度時間をかけて準備をするようにしています。

「量より質」「質より量」という言葉がありますが、もちろん質も大事ですが、私にとっては「質より量」が大事であり、日々量をこなすつまり、時間をかけて準備することで質が高まると考え、継続してきました。

そして、それがいつしか自分の当たり前になり、学業にかかわらず日々の生活における準備の大切さに気づきました。明日を有意義に過ごすためには今日の準備が必要で、今日を有意義に過ごすためには昨日の準備が必要となり、こう考えるようになったことで、大学生活を通して「当たり前」を継続できる精神力がつけました。

そしてこのような充実した生活を送れたのは、何よりも家族の毎日の支えがあり、辛いことも共に乗り越えた友人の存在があり、さらに困った時に的確な助言をくれた先生方のサポートがあつてのことだと思っています。この場をお借りして感謝申し上げます。



在学生から

感謝カンゲキ雨嵐

鹿児島大学大学院 理工学研究科

博士前期課程2年

工学専攻・機械工学プログラム

福山 昇吾

時代と共に進化し続ける機械たちが私たちの日々の生活を大きく支えています。こうした機械の仕組みや原理を知りたいと考え、機械工学を学ぶ道を選びました。

大学入学当初は地元を離れ、友達ができるか、勉強についていけるか不安でいっぱいでしたが、多くの友人に恵まれ、そんな不安もすぐ吹き飛んでいきました。大学では共通教育や専門科目の授業を通し、多くの学問に触れ、様々な考え方を学ぶことができました。学年が上がるごとに授業も増えレポート課題に追われ、忙しい日々を送った時期もありました。最初は解き進めるのに時間を要していましたが、こなしていくうちに知識が蓄えられ、解ける問題が増えていき、いつしか楽しさを覚えていきました。その楽しさが徐々に学問への探求心へと変わり、大学院への進学を決意しました。

私は機械力学に関する研究室に所属し、主に振動の解析を行っております。その際に使用するプログラムを作成する上で多くの課題に立ちはだかれましたが、担当の先生や研究室のメンバーから助言やサポートを頂きながら、様々な角度からアプローチをし、エラーの要因を一つ一つ取り除くことで解決することができ、自分自身も大きく成長することができました。そのような経験の積み重ねが今の自分の大きな糧になっていると思います。

鹿児島大学で出会った友人、先輩、後輩たち、授業や研究等でお世話になった教職員の方々、学生生活を様々な面から支えてくれた家族には心より感謝しております。卒業後は、ここで得た経験や知識を生かし社会に貢献することで、支えてくださった方々に恩返しをしていきたいです。



在学生から

「挑戦的な経験を」

鹿児島大学大学院 理工学研究科
総合理工学専攻博士後期課程3年
陳 博 (CHEN BO)

子供の頃から日本のアニメが好きでした。また大学生の頃には日本で働いている兄から日本のことをよく教えてもらい、日本の事情をもっと知りたいと思っていました。そして日本語塾に入り、日本語を勉強することと共に、更に日本の文化や先端技術に興味を持つようになり、日本に留学することを決めました。

日本に留学する動機は最新技術を学び、博士号を取得したいと思ったことです。母国の大学を卒業した後、2010年10月に久留米大学日本語の別科に入りました。その後、2012年4月から鹿児島大学工学部で1年間の研究生を経て、2013年4月に鹿大大学院の情報生体システム工学専攻に進学しました。2015年3月に修士号を取得し、同年4月に地元鹿児島市でのIT企業にエンジニアとして就職し、働いています。更に専門知識を深めるため、2017年4月に鹿大大学院の博士後期課程に進学し、「オープンデータの活用」という研究テーマに積極的に取り組んでいます。

多くの留学生と同じように、来日最初の時は、私も日本語を全然喋れなく、授業や日常生活等にとっても不安でした。しかし、日本語授業で優しい先生たちのおかげで日本語を学び、またアルバイトを通じて、日本語を話せるようになりました。人生はどんなに辛くても困難に直面する勇気が有れば、乗り越えない障害がないと思っています。

そして現在、私はオープンデータにおける述語サジェストに関する研究を行っております。現在、日本をはじめ多くの国でオープンデータの活用に取り組んでいますが、データ形式の違いにより活用まで至っていないのが現状です。そこで、述語の語彙共通化を行うための述語のサジェスト手法を提案しました。述語のサジェスト手法を活用し、CSV形式のデータをRDFにうまく変換できれば、複数のオープンデータの機械的な連携が可能となり、オープンデータの活用を促進することができると思っています。

最後に、大学や職場での教授、先輩、同僚からたくさんのご助言をいただき、大変お世話になり、心から感謝申し上げます。皆様と良好な人間関係を築き、多くの日本人の方や異文化に接することを通して、日本のことがもっと好きになり、日本人の物事に関して考え方や価値観等を理解し、日本の社会に馴染めるよう頑張ります。この留学経験は自分にとって人生の大切な宝物です。これからも、新しい知識・技術を身に付け、社会に貢献し続けていきたいです。より多くのことを体験し、いろいろな方と出会うことを楽しみにしています。また将来は、帰国し、日本で学んだ様々な知識と経験をアピールしたいと考えており、日本と中国のかけ橋として、少しでも貢献ができれば幸いです。



留学生から

新視点

化学生命工学プログラム4年

郭 書彦 (カク ショゲン)

高校を卒業した18歳の自分は、中国から日本に着て、留学生生活を始めました。私は自分の国ではできないYouTubeやTwitterを始めたり（中国ではVPNなしで閲覧できない）、周りと新しい人間関係をつくり始めたりすることはせず、今までの暮らし方で生活していました。生活習慣すらも日本に染まるようなことはせず、日本の歴史や文化、社会制度などせっかく日本に来ましたが、まったく考えることはありませんでした。そして、このようなことは自分だけでなく、少なくとも中国人留学生の中では珍しいことではありません。極端な話をすると、例え日本語がまったく出来なくても、今までの暮らしを続けることができるので、生活していくことは決して難しいことではないです。

「別に変えなくてもいい」という意見があるかもしれませんが、しかしよく考えるとこれこそ「井の中の蛙」という言葉が指している人間ではないでしょうか。ひとつの文化、ひとつの価値観しか味わったことがない人間は、どうやって今までの環境を評価し、反省出来るのか、現状こそが当たり前と思う社会がどうなるかは歴史が何回も何回も教えてくれています。そういった歴史から、世界第二位の経済体まで成長し、天狗になった我が14億の国民の様子を見て自分がそう深く、そして恐ろしく感じました。ですから自分にとって留学で得たものの中で一番価値があるのが「海外の楽しい体験」ではなく、今までの環境に対する反省そのものです。

では民主主義の日本で生まれ、ネットの制限がなく、言論の自由が確保された皆様はどうでしょう。選挙カーが町でうるさくグルグル回ることが怪しいと思ったことはないでしょうか？上下関係の儒教倫理について疑問に思うことはないでしょうか？自由と民主という空気のような存在が自分の生活にどう影響するか考えたことはないでしょうか？ここで何か批判しようとしているわけではなく、自分が言いたいことはただひとつ、「留学や勤務などの長時間海外体験のチャンスがあったら、見逃さないように」。

教員の異動

<採用>

(令和3年1月1日～令和3年12月31日)

(情報・生体工学プログラム) 松元 隆博 教授 令和 3年 4月 1日付 山口大学

<昇任>

(情報・生体工学プログラム) 岡村 純也 准教授 令和 3年 4月 1日付 情報・生体工学プログラム 助授

(海洋土木工学プログラム) 加古 真一郎 准教授 令和 3年 4月 1日付 海洋土木工学プログラム 助授

<定年退職>

(機械工学プログラム) 近藤 英二 教授 令和 3年 3月31日付 平成 8年 4月 1日から令和 3年 3月31日

(情報・生体工学プログラム) 大塚 作一 教授 令和 3年 3月31日付 平成19年 4月 1日から令和 3年 3月31日

(建築学プログラム) 本間 俊雄 教授 令和 3年 3月31日付 平成10年10月 1日から令和 3年 3月31日

大学院理工学研究科・特任教授(令和4年8月1日より)



表紙写真の現在 (2021年)

機友会

機友会本部の活動状況

令和3年度の機友会総会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止となった。

令和3年度 機友会各支部の活動を以下のとおり報告します。

福岡支部の活動状況

令和3年度総会については、まず役員会（オンラインで実施）で2年連続の中止は避けるべきとのスタンスで協議し、その結果、書面開催を基本とし、令和3年11月6日（土）にオンラインによる確認会を開催しました。書面開催については198名の会員に議案を送付し32名から回答をいただきました。オンラインによる確認会の参加者は7名でした。総会では議案として会計報告（令和元年度と令和2年度の決算報告・監査報告と令和3年度の予算案提案）及び新役員案が提案され、原案通りに可決していただきました。今年は役員改選期であり新役員案が提案され、下表のとおり新役員が決定しました。なお、参加会員数の減少を踏まえ、役員についても副支部長の廃止、幹事と会計の兼務にて、5名体制から3名体制に縮小しました。

福岡支部の課題としては、若い方の参加を増やすことです。会員諸兄からの活性化のご提案を承りますので、遠慮なく幹事の方へご連絡ください。

その他の活動として、令和3年当初には工学部75周年記念事業の支援事業として支部会員の皆様に募金の協力をお願いをさせていただきました。おかげをもちましてそれなりの成果がありました。

また、令和3年12月8日には第2回機械工学セミナー講演会に「開発エンジニアを目指す」と題して、福岡支部会員である原田節男氏（S46卒）に講演をしていただき、母校の教育活動にも支援ができました。

さらに、鹿児島大学同窓会連合会福岡支部（通称：福岡北辰斜の会）に参加しており、令和4年2月19日（土）には「福岡北辰斜めの会2022」を、「機友会福岡支部」と「しらなみ会（海洋土木）福岡支部」の共同幹事にて開催する予定です。ぜひご協力とご参加をお願いします。（令和3年2月の開催は中止）

【支 部 長】	田中 宣秀（S58卒）	【幹事・会計】	柳 和宏（S57卒）
【会計監査】	大久保康志（S62卒）		

関西支部の活動状況

令和3年度は7月10日（土）に「新大阪ワシントンホテル」で開催予定でしたが、コロナ禍の影響で中止といたしました。

令和4年度は7月2日（土）に同ホテルで開催予定です。夏期にはコロナウイルスが終息し、開催できることを会員一同期待しています。

中京支部の活動状況

令和3年度中京支部総会は、昨年度同様新型コロナウイルスの影響で残念ながら中止といたしました。このような状況が早く終息し、先生方はじめ会員同士の交流ができるようになることを切に願っております。

関東支部の活動状況

昨年よりのコロナ禍の中、令和3年11月予定であった機友会関東支部総会は残念ながら中止にしました。但し鹿大機械科卒業生が集結し、昔を懐かみ、親睦を深める同窓会、総会とは違った形で、個人の尊厳の上に成り立つ情報交換、意見交換、強いて言えば絆を深めるメール交換などを何度も実施し、個の自立、前進を深めながら卒業生のつながりやコミュニケーションにプラスしながら交流を深め、絆を深めて行きました。令和4年はコロナ禍が消息し晴れて対面での有意義な総会を実施したく思っています。

さらに季節の変わり目には写真愛好家の諸兄より季節の風物詩なるスナップ写真がたくさん送信されて来ました。春は百花繚乱、桜吹雪。初夏は溪谷の新緑の息吹、早朝の蓮の花のポンという音が聞こえそうな開花の瞬間。夏は色とりどりの花火の競演。秋は古びた名刹や神社の見事な紅葉群これらのスナップ写真が、コロナ禍の中、外出禁止の時節に機友会同士に一服の安らぎと、そこに出かけたかのような雰囲気を楽しむことが出来ました、有難い贈り物です。これも機友会のつながりが演出した技であることは言うまでもありません。

トピックスを一例：去る4月24日鹿児島大学工学部75周年記念式典の基調講演で我が機友会関東支部「鹿大 北辰会」所属柿元邦彦君が「天、知、人、運不運に翻弄されて」と言うタイトルで講演しました。日産スポーツモーターでGTR戦に立ち向かうため各種開発、人間関係、精神状況、等勝負に挑む姿を「結果が全て」但しその間のプロセスの重要性を説いた講演で視聴者に大きな感銘与えたと思っています。

錦水会

◇鹿児島支部◇

錦水会鹿児島支部総会報告

鹿児島支部長 池田 浩二

令和3年もコロナ禍の下での活動となり、毎月の幹事会はオンラインで開催して参りました。支部総会やきばっど会の開催方針を決める8月には、鹿児島県の1日の新型コロナウイルスの新規感染者数が200人を超えた日もあり、去年同様、会議アプリ「ZOOM」を利用したオンライン方式で鹿児島支部総会、きばっど会を開催することを決めました。

教室の予約や開催に向けた案内状の作成、封筒詰め・送付といった準備作業を9月に行い、10月に入り、きばっど会講師との事前調整や総会本番に向けて、諸打合せを重ね、令和3年10月23日（土）、総会の日を迎えました。

総会では、池田支部長が、冒頭のあいさつを行い、決算、予算、そして、今年度の事業計画は（1）コロナ禍に対応した同窓会活動の推進（2）若手卒業生へのアプローチ推進（3）錦水会の認知度の向上、を提案しました。当初はぎこちなかったZOOMでの挙手も後半はスムーズにすすみ、すべて承認いただき、予定時間内に議事を終了しました。

今年は、総会の後にオンライン飲み会兼反省会を催行しました。先生方にも任意で参加いただき、自宅で飲みながら錦水会の認知度向上など、1時間ほど活発に意見交換を行いました。



きばっど会は、総会に先立ち、同日に開催しました。講師は、パナソニック エナジー株式会社 東 貴彦氏(H28 電気電子工学専攻)株式会社ダイヘン 中津川 勇二 氏(H3 電気工学科)です。お二人とも関西支部 白石 司支部長のご推薦によるものです。講師をお願いするにあたって、東氏からは、近くコスタリカに長期出張ありとのことでした。日本とコスタリカとの時差は、15時間です。日本の方が、15時間進んでいます。多少の不安は感じましたが、オンラインが新しい日常になっていることもあり、講師を正式に受けていただきました。事前の接続テストにおいて、工場で突発の緊急対応が重なって仕切り直しというトラブルもありましたが、テスト日時をなんとか再調整し、無事本番を迎えることができました。

2人の講師の方には、学生を引き付ける素晴らしい講演をしていただきました。東氏は地球の裏側からですので、現地時間は深夜22時でした。この時間に講演をライブで実施してもらい、企業戦士の頑張りを学生たちも体感できたものと思います。中津川氏はこれまでの企業経験も交えて含蓄のある深い講演をしていただきました。

ZOOM接続も全く問題なく、教室とオンラインで参加した学生は計約150名あまり、大変ためになったと感想を寄せています。資料の準備や時間の確保など多くの労力を割いてくださいました講師の皆様に、心から感謝申し上げます。

来年は、3年に1度の7支部長が揃う錦水会総会を本部で開催予定です。この後の新型コロナの感染の状況にもよりますが、対面で開催できるのか、気がかりなところです。

◇関東支部◇

関東支部長 田原 洋一

本来ならば2020年に「連合会同窓会関東支部総会」、2021年には「錦水会関東支部総会」が開催される予定でしたがコロナ禍で中止となりました。2022年は工学部合同同窓会開催予定の年になりますがなんとか開催できるようになることを祈りたいと思います。

こうした中、2021年は、情報・生体工学プログラムの岡村先生より「学生の工場見学をリモート開催できる企業」の紹介依頼がありました。これに対して卒業生のご協力で、大日本印刷、東芝、オムロン、東京エレクトロンの各社が協力してくださることとなりました。尽力いただいた卒業生に方々に感謝申し上げます。

同窓会メンバー間の交流がままならない中、幹事においてはリモートで適宜幹事会を開催し情報共有しました。また2019年よりスタートした親睦ゴルフを関東地区にコロナ陽性者が減少した頃を見計らって、2020年10月に1回、そして2021年12月に1回開催しました。まだ予断を許さない世間の状況ですが、徐々に交流の場を広めていきたいと思っています。



2021年12月、親睦ゴルフにて

◇東海支部◇

< 亡き先輩を思う >

東海支部長 永野 博

約1年の間に、東海支部は貴重な方々を失いました。

ここに改めて記すると同時に、同窓会を継続していくに当たり先輩諸氏の汗が我々の基礎となっている事を自覚する意味で、寄稿いたしました。

宗方光留 様 (自称：シーラカンス)

- ・ S23年卒 鹿児島県立工業専門学校 (第一回生)

(S24年に県立鹿児島大学工学部/S30年に国立鹿児島大学工学部となる)

- ・ 電電公社後、三菱重工にてエンジニア畑を歩む

民間による戦後初の国産機YS11開発に当たり、技術者の中心的存在で活躍。

戦後における日本が飛行機開発を進めるに当たっては、当時頼れるのはアメリカしか無く、そのknow-howと実技の習得の為渡米し、帰国後開発グループを率いた。

同窓会時、我々後輩へこの経験よりお聞きしたのは、「国が変わっても人が変わってもいかなる困難に遭遇しても、対する人へ誠意を尽くし、リスクを負い、努力する事が道を開いてくれる」と。

- ・ S36年よりH19年迄長期に渡り、初代東海支部長として東海支部をリードして頂いた。

木脇祐弘 様

- ・ S29年卒 県立鹿児島大学工学部

- ・ 主に小野田セメントにて、エンジニアとしてマネージメントとして活躍

エンジニアスキルを活かしたマネージメント職にほれ込んだ話に耳を傾けた我々でした。

大きな仕事を成すには、人との繋がり大切さを教訓としてお教え頂きました。

- ・ 同窓会に関しては、中心となり中興の祖として東海支部を立て直して頂きました。数年一度の同窓会開催が先細りの状況にあっては、卒業生や大学とのやりとりにて現在の毎年開催の基礎を作って頂きました。

帰京後も東海支部へ目をかけて頂き、色々と貴重な経験談をして頂きご指導いただきました。

このお二人に限らず、我々の先を歩まれ苦勞された先輩の経験が我々の道案内となっています。有り難い、同窓の士です。

最後に、ご冥福をお祈り申し上げます。





◇福岡支部◇

令和3年度 錦水会福岡支部総会中止について

福岡支部長 権藤 正信

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2021年11月27日予定の定例総会は残念ながら昨年に続き中止いたしました。毎年1回、近況を報告し合い親交を深め、楽しい時間を過ごさせていただいていた総会後の懇親会も2年連続で中止となり、会員の皆様にはたいへん申し訳なく思います。来年こそは皆様方にお会いし、共に「北辰斜に」を歌うことができるのを楽しみにしております。



福岡支部総会 2019年11月30日集合写真



福岡支部総会

◇宮崎支部◇

宮崎支部長 本田 博

宮崎支部では、会員相互の親睦と母校の発展を願い毎年10月に総会・懇親会を開催しておりますが、今年も昨年に引き続きコロナ禍により中止せざるを得ませんでした。楽しみにされていた先輩方と顔を合わせることが出来なかったことは、残念でした。

役員会で、総会中止はやむを得ないが、代わりにオンラインで集う会を試行してみようということになり、有志でのZOOMの集い・飲み会を行いました。オンラインでの懇親会も結構楽しく、あっというまに時間も過ぎていきました。写真は、ZOOMでの集いの一場面です。

来年こそは、総会・懇親会を是非とも開催できることを願っております。



ZOOMでの集い

錦水会関西支部および熊本支部の支部総会につきましては、コロナ禍のため今年度は開催されませんでした。

AOI会

会員の皆様におかれましては、ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃から同窓会の活動にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

コロナ禍はまだまだ予断を許さない状況下ではございます。何かと不便の多い今日ですがこの状況が一日も早く解消されることを切に願うところです。

さて、令和3年度AOI会の活動と本学科の近況をご報告申し上げます。本年度より工学部同窓会会長に、本会員宮城泰児（S53卒）様が就任されました。また、去年は多くの同窓会活動が中止となりましたが、今年は「建築ナビ」を開催することができ、4名の卒業生からご講演を賜りました。一方、鹿児島本部は元より各支部の総会や懇親会は昨年引き続き、残念ながら中止となっています。

本学科の近況としまして、理工学研究科長でもあった本学科教授本間俊雄先生が令和3年3月に定年退職されました。現在、鹿児島大学名誉教授として、更に特任教授として引き続き鹿児島大学にご尽力頂いております。その他、鷹野敦先生が科学技術賞理解増進部門にて、文部科学大臣表彰を受賞致しました。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆様のご健康をお祈り申し上げます。



文部科学大臣表彰受賞 鷹野 敦 先生「こどものけんちくがっこう」



学部1年 設計基礎Ⅱ 研修旅行の様子 知覧武家屋敷見学 2021.10.12



学部2年 建築設計Ⅱ こども園課題 講評会の様子 稲盛会館 2021.10.24



学部3年 建築設計Ⅳ 劇場課題 講評会の様子 01 教室 2021.10.25

第19回 建築ナビ「先輩と進路・就職を語る会」

建築ナビは同窓会が主催する講演会で、最前線で活躍されている本学科の卒業生をお招きし、社会的経験、人生観等を講演して頂くとともに、先輩との情報交換を目的として企画された会です。本年度は、稲盛会館で講演を行い、一部学生が会場で聴講、更にはその講演の様子を zoom で中継するハイブリッド形式で開催し、4名の卒業生にご講演頂きました。更に、藤園様、柳様、岩本様の3名のご講演は稲盛会館にて、後藤様は遠くイギリスから参加頂き、イギリスと鹿児島をオンラインで繋ぎその様子を中継し開催致しました。コロナ禍で遠隔コミュニケーションが普及しオンラインの利用によるグローバルな開催も可能になったことは、今後更に多くの皆様からご指導頂ける契機になりました。

日時 | 2021年11月13日(土) 13:30～17:30

建築ナビポスター 製作：M1井之口

場所 | 鹿児島大学稲盛会館 + オンライン

藤園 武史 H19修

三協立山株式会社 技術開発部門

「窓を通じて建築を知る」

柳 健吾 H7卒

東レ建設株式会社事業開発室長兼

海外事業グループリーダー

「私の学生時代と仕事を振り返って」

岩本 茂美 S60修

株式会社傳設計 代表取締役

「想い・安全・未来をカタチに」

後藤 友紀 H15修

Studio4 Architecture

「海外で働く：海外用の履歴書/ポートフォリオの作り方」



建築ナビ当日の様子 左より | 藤園様 岩本様 柳様 塩屋先生 スクリーン | 後藤様

第13,14回AOI会設計優秀賞 授賞式

建築学科同窓会 AOI 会が主催する「AOI 会設計優秀賞」は、「建築を学ぶ有望な在学生の設計活動を励ます」ことを主旨として、平成 20 年に創設されました。設計課題に真摯に取り組み、年間を通して創作・設計活動に秀でた学生を表彰・奨励し、次代を担う若者を応援することを目的としています。コロナ禍により、昨年度は授賞式を中止したため、本年度は第 13 回及び第 14 回受賞者 8 名の授賞式を行いました。

第 13 回 AOI 会設計優秀賞受賞者

1 年生 野口 理紗 木戸なぎさ
2 年生 鈴木 芹菜 中州賢太郎
3 年生 松崎 太一 杉岡 和

第 14 回 AOI 会設計優秀賞受賞者

1 年生 永渕 涼佑 板井 成樹
2 年生 石川華菜子 花村 咲
3 年生 柳田 陸斗 原口 朋花

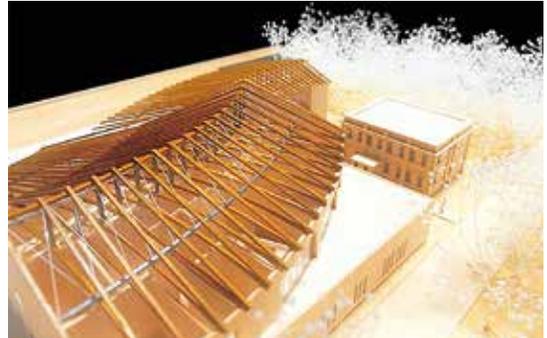


授賞式の様子 稲盛会館

－受賞者コメント－

第 14 回 AOI 会設計優秀賞受賞 学部 4 年 柳田 陸斗

この度は、AOI 会設計優秀賞を頂き、誠にありがとうございます。このような素晴らしい賞を受賞できましたのは、ご指導くださった先生方、ご助言をくださった先輩方、そして共に切磋琢磨してきた同級生の仲間のおかげだと改めて感じます。本学に入学して以降、日々建築の面白さに気付かされながら設計課題に取り組んで参りました。その一つの成果として、



2020年度 3年生 前期課題 博物館 模型写真

、同窓会の方々より名誉ある賞を頂戴できたことを、光栄に思います。特に、大規模かつ難しい条件の建築の設計に課題として挑んだ3年次に受賞できたことを大変嬉しく感じています。この賞を糧に、今後も建築の学びに真摯に向き合っていきたいと思っています。ありがとうございました。

各支部の年会と日程

鹿児島本部 | 2月の第1土曜日

大分支部 | 工学部同窓会として開催

北九州支部 | 12月の第1土曜日

関西支部 | 9月末頃

関東支部 | 工学部同窓会として開催

事務局 川畑様

和田支部長

守支部長

事務局 長崎様

楊支部長

連絡先：090-8389-5819

連絡先：0977-25-1221

連絡先：092-871-8450

連絡先：070-1587-9731

連絡先：03-3263-6554



定年退職と再就職

鹿児島大学名誉教授
理工学研究科資源循環システム共同研究講座特任教授
本間 俊雄

私は令和3年3月末日に鹿児島大学を無事定年退職しました。平成10年に総合建設会社のフジタより赴任し、あっという間の22年6箇月でした。在職期間は大きく3つに区切ることができます。平成17年ごろまでの第一期はひたすら机に向かい本や論文を読み、頭の中で妄想しながら手を動かしていました。生活の中心は朝昼晩と教員室や研究室にありました。この時期の妄想に基づき、平成24年ごろまでの第二期に学生さん達とワイワイ言い合いながら、多くの問題に適用して論文にまとめています。第三期は大学の運営に深く関わりました。特に最後の6年間は工学部評議員と理工学研究科長の要職に就き、過去の理工学研究科と工学部の実績や評価の取りまとめ、さらには理工学研究科博士前期（修士）課程の改組、改組終了後に定員増の文科省への説明と続き、私自身の研究が手薄になった時期です。幸運なことは第一期の研究成果は第二期以降に引き継がれ、平成23年日本膜構造協会特別論文賞、平成26年日本建築学会賞（論文）を受賞しました。優秀な多くの学生さんが研究室に集い（卒業論文指導126名、修士論文指導89名、博士論文指導3名）、様々な結果を出し続けたことが受賞につながったことと深く感謝しています。また、研究室OBが社会で活躍されていることを聞く度に幸せな気持ちになっています。

4月からは自宅のベランダより桜島をボーッと眺め、趣味の本でも読み耽る日々が続くものと考えていました。しかしながらいろいろな事情が重なって8月より理工学研究科資源循環システムの共同研究講座特任教員として毎日鹿児島大学に通っています。建築分野とは異なりますが理工学研究科をはじめとして農学部や水産学部の先生方と新たな分野に挑戦しています。新しい研究室とPC等が割振られましたので、やり残した研究が続けられることも幸せに感じています。今後ともよろしくお願いいたします。



2014年日本建築学会賞受賞

研究室での様子

第63回 鹿児島大学建築展

「すき ～透き、空き、好き。～」

鹿児島大学第63回建築展実行委員長 4年 川俣 悠

コロナ禍というこれまで誰も経験したことがない状況下で、ご協力いただいた企業様、地域の皆様、先生方など、様々な人に支えられながら第63回建築展を無事開催することができました。誠にありがとうございます。例年3年有志が秋頃に開催する建築展ですが、実行委員で何度も話し合いを重ねた上、十分なコロナ対策を講じて4月3～4日での開催となりました。そして二日間で617人の方に来ていただき、大盛況で幕を閉じることが出来ました。

テーマとして「すき ～透き、空き、好き。～」を掲げ、コロナ禍によるソーシャルディスタンスへのネガティブなイメージをなくすために、距離を取りながら空間を楽しむことを目標にしました。シンボルのフォリーでは人と距離を取りながら作品が見れ、フォリーの隙間が透けて更に建築学生の世界を覗ける仕組みでした。子ども向けのスケールドアウンしたフォリーと同じ部材を使い、オリジナルな空間を創出出来るブースも多くの方に楽しんでいただきました。



建築展参加学生



建築展ポスター



当日の様子

関西AOI会アーカイブ

関西AOI会 代表幹事 瀬山 憲正（S47卒）

昨年2020年初からの日本を襲う新型コロナ禍は終息の兆しもなく第5波から第6波も懸念される状況となっています。加えて猛暑、線状降水帯による土砂災害など自然現象にあらがうことのできない日本列島の中で、新型コロナ防ぎつつ、生き抜いていかなければならない日々が続いております中、会員の皆様は艱難辛苦の日々と推察申し上げます。

例年9月最終土曜日に開催予定でした関西AOI会総会及び懇親会は関西地区新型コロナウイルスの感染状況では開催はできないと、定例夏季幹事会にて決定、中止の連絡をさせていただきました。例年の総会・懇親会では、大先輩の懐かしい話題、初々しい新入会員のきらきらした眼、充実した中堅の体験話、増えた女性会員の新鮮な話題など、「老年・壮年・青年」混然とした貴重な機会、時間が拮がり、「明日に向けて頑張ろう」と会場を後にしてきました。会員相互が直接膝を交えての情報交換ができない中、会報発行を通じ、お一人お一人の情報交換のきっかけで、何かしらの縁、役立ちが生まれていくのではないかと、たとえ僅かであっても「希望」を感じます。

関西AOI会始まりの年は正確には不明ながら昭和30年代から継続されており、昭和51年には紅地に白文字で染めた「関西AOI会旗」が披露されました。AOI会発足からは恐らく60年還暦は過ぎているのではないかと予測されます。先輩の方々で昭和30年40年代の資料、思い出などありましたらご提供いただき、何らかの形で記録残して、平成・令和の後輩達に引き継いでいきたいと思います。

新型コロナはワクチン接種拡大と共に徐々には終息に向かうかと思われませんが、全くなくなるはずはなく、将来とも共生していく疾患でしょう。現役世代の方々のワクチン接種が早期に終われば、動きに変化が出るやもしれません。できることは微々たることかもしれませんが「健康とは心と体が健全であること」念頭に辛抱強く日々大切に過ごしていきたいものです。



関西AOI会旗



皆川先生のご挨拶
(2001年関西AOI会懇親会の様子)

毎年2月「建築学科2年生関西研修での先輩の働く現場見学会、先輩現役懇親会」4月「水と巡る千年の都京都ウォーキング」9月「関西AOI会総会」晩秋「ゴルフ懇親会」の諸行事がコロナ禍以前に戻り、当たり前で開催され、学生時代の縁続きで老壮青みんなの笑顔・繋がりが戻る日を心待ちにしています。



山口素興氏（「関西AOI会旗」考案者）の挨拶
(2001年関西AOI会懇親会の様子)



北辰斜めにの音唱
(2001年関西AOI会懇親会の様子)

小山田善次郎先生ご逝去の報

恩師小山田善次郎先生は、令和3年1月8日92歳にて永眠されました。先生は、昭和40年10月に鹿児島大学に着任、平成10年3月に退官、約33年の長きに渡り本学科に奉職されました。謹んでお知らせ申し上げますと共にご冥福をお祈り申し上げます。



南窓舎密会

南窓舎密会の部会便りとして、令和3年に開催された第29回南窓舎密会総会および近況をご報告致します。

○講演会および第29回南窓舎密会総会（令和3年10月9日（土）、13時から17時）

昨年度（R2年度）の講演会は新型コロナウイルス感染症を考慮して、中止とさせていただきましたが、本年度（R3年度）は講演会および総会を感染対策した会場（郡元キャンパス内）と遠隔（ZOOM）によるハイブリッド開催としました。なお、学生および教員、卒業生にメールおよびHP等で周知し、当日は約90名を超える参加をいただきました。

・講演会（先輩の話を聞いてみよう）（13：00～14：50）

2名の卒業生に講演していただきました。



講演1. 「食品工場での化学工学の活用」
有水 伸一 氏
（平成9年 応化工修了、株式会社 サナス）



講演2. 「公益性を有する試験検査事業の展開
～水・食品・医薬品等の検査を通じて～」
山口 やよい 氏
（昭和58年 応化卒、鹿児島県薬剤師会）

学生時代の勉学の意義や、経験・失敗談なども含め、製品開発や同業他社にはない魅力など、興味深いお話を講演いただきました。これまでの対面式の講演会とは異なり、不安を感じながらの開催でしたが、遠隔参加者からも質問・発言があり、活発な討論がなされました。今回のような遠隔形式での開催も含め、今後も多くの方に講演会に参加していただけるよう開催方式を検討します。

・第29回南窓舎密会総会（15：00～17：00）

講演会終了後、引き続き遠隔会議にて第29回総会が開催されました。まず下茂徹朗南窓舎密会会長のご挨拶後、議長に選任された橋口周平南窓舎密会本部監事により、以下の議題について報告・審議いたしました。*資料等は事務局にお問い合わせください。

(議題・審議事項)

- 1) 庶務関係
R 2年度 本部・支部報告、
R 3年度 計画案
- 2) 会計関係
R 2年度 決算報告（監査報告）、
R 3年度 予算案
- 3) 編集関係
R 2年度報告、
R 3年度 計画案
- 4) その他
工学75周年事業関連の報告ほか



会長挨拶
下茂 徹朗 南窓舎密会会長

- 1) 庶務関係
令和2年度の本部報告を以下にまとめます。

令和2年度 南窓舎密会経過報告（抜粋）

2020/5/18	工学部同窓会編集幹事会、橋口編集幹事、名簿16号・会報18号について
2020/5/25	工学部同窓会庶務幹事会、吉留庶務幹事、年間計画、大分支部総会、拡大幹事会、岸園賞、司会、岩崎基金・岸園基金の規則、工学部同窓会総会等、“工学部同窓会諸活動支援”、“学生活動助成”について
2020/7/9	工学部同窓会会計幹事会、満塩会計幹事、山元（本部会計監事）；決算、予算、配分、督促について
2020/8/11	学内幹事会（化学生命工学棟会議室）、染川、吉留、橋口、満塩、鮫島、山元（本部会計監事）；行事案、予算、75周年事業関係について
2020/8/28	工学部同窓会拡大幹事会、南窓舎密会から：染川、下茂、吉留、山元（本部会計監事）、岸園賞：該当なし、75周年事業（進捗状況など）、第9回 司（つかさ）会は中止
2020/8/31	メール会議（南窓舎密会&スポーツ大会・総会・懇親会等について→中止）
2020/10/10	南窓舎密会総会（化学生命工学棟42号室）、遠隔（ZOOM）にて実施
2020/12/10	令和2年度工学部同窓会学内幹事会 遠隔（ZOOM）にて開催
2021/3月	会報「南桜風」第18号発行、在校生卒業生修了生全員に送付
2021/3/25	環境化学プロセス工学科、化学生命工学科、化学生命・化学工学専攻 卒業・修了証書授与式（→中止）
2021/3/25	工学部同窓会名簿 第16号第2版（CD）発行、卒業生修了生全員に郵送

別途、東海支部と関西支部より支部報告がなされました。また本年度の計画についても報告・審議されました。

2) 会計関係

令和2年度の会計は、別途、会計監査員による監査報告された資料に沿って報告がなされ、本年度の予算案についても審議・承認されました。本部の支出（運営費）は、総会のリモート開催などの対応も考慮して、可能な限り減額できるように調整し、在学生の終身会費の徴収を適切に対応することとしました。

3) 編集関係

会報「南桜風」（第18号）や工学部同窓会名簿（第16号2版）の発行について報告がなされました。また今後の会報誌（南桜風）“部会だより”について、各支部にも執筆等を依頼し、同窓生の交流の活性化に結び付けたいことが報告されました。

4) その他

○ホームページの改装について

R3年6月より、南窓舎密会のホームページを改装しました。同窓生との繋がり場としてご活用ください。<http://www.cb.kagoshima-u.ac.jp/nansouseimikai/index.html>

○工学部創立75周年記念事業について（南窓舎密会関係）

- ・記念誌事業；記念誌が発行され、17名の卒業生・関係者に執筆いただきました（2021年6月）。執筆者には感謝申し上げます。
 - ・寄付金事業；多くの卒業生・関係者にご寄付をいただきました。
- なお、75周年記念事業については以下のホームページを参照ください。

<https://www.eng.kagoshima-u.ac.jp/other/75memorial/>

○竹下先生の偲ぶ会

経緯と執筆依頼などを南窓舎密会のホームページを活用して情報共有いたしました。また南窓舎密会の通帳を振込先として使用しました。

○コロナ感染症関係

例年、卒業・修了証書授与式等の助成金を対応しておりましたが、R2年度はコロナ感染症の影響のため開催されませんでしたので、別途、対応を予定しております（後日、化学生命工学棟図書室のカーペット改善費および掃除機を提供しました）。

○教員配置

令和4年3月をもちまして、甲斐敬美教授および隅田泰生教授が定年退職されます。現在の教員等の情報は、ホームページでご確認ください。

- ・先進工学科 化学工学プログラム（旧環境化学プロセス工学科）
<https://ecp.cen.kagoshima-u.ac.jp/>
- ・先進工学科 化学生命工学プログラム（旧化学生命工学科）
<http://www.cb.kagoshima-u.ac.jp/>



最後のあいさつ

工学専攻 化学工学プログラム 甲斐 敬美

1985年4月に化学工学科の講師として着任して以来37年が経ちました。高橋武重先生をはじめ化学工学科および応用化学科の先生方、現在のプログラムの先生方、技術および事務職員の方々、他にも多くの方々に支えられ、教員生活を終えることができました。この間、高橋研究室および甲斐研究室において322名の学生を迎え入れ、そして送り出してきました。工学部の教育プログラムの中で卒業論文や修士論文は重要な役割を持っています。そこでは、研究を通して考えることの重要性を教えていくのですが、十分には伝えきれなかったと反省しています。ところで、修士の学生には日韓の学生シンポジウムでの発表機会を継続して提供することができ、アジア諸国への旅行ではいい思い出もできたと思います。また、最近は学会での学生発表に対する表彰も増えてきました。多い年は延べ5～6名の学生が受賞しました。頑張った結果だと思えますし、このような学生諸君のおかげで研究を進展させることもできました。この4月からは自分の時間を多く持つことができると楽しみにしていましたが、いくつかの企業でのプロセス開発のお手伝いをさせていただくことになり、鹿児島大学だけでなく、あちこち飛び回ることになりそうです。最後になりましたが、工学部卒業生の皆様、工学部教員の皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。長年にわたり、ありがとうございました。



定年にあたって

工学専攻 化学生命工学プログラム 隅田 泰生

昨年、工学部75周年記念誌に拙文を掲載いただきました。私が本学に赴任して以来の19年間もまとめておりますので、詳細はそちらを参照いただければ幸いです。ナノ専攻から化学生命工学専攻の教授として、糖鎖の化学生物学（Chemical Biology）とナノバイオテクノロジーの独創的な研究を行い、その成果を社会に還元することを常に考えてきました。鹿児島のメディカル関係の先生方との共同研究、鹿児島県からのサポート、さらに小学5年生から継続してきた剣道のご縁もいただき、鹿児島の水に完全に適合し、20年間の充実した単身赴任生活を過ごしました。この間、2006年には鹿児島大学発ベンチャーとして（株）スティックスバイオテックを創業し、新型コロナとインフルエンザに対して、開発した糖鎖ナノテクノロジーに基づくウイルスの高感度検査法を応用し、保険適用の体外診断用医薬品を上市することもできました。研究成果の社会還元を些少なりとも出来たのではないかと考えています。関係いただいたすべての方々に御礼を申し上げます。学生への教育に関しては、「啐啄同時の機」、「小善は大悪に似たり、大善は薄情に似たり」を座右の銘として、厳しいと嫌われても、「鹿児島大学」を卒業したことを誇りに思える人材を養成する義務が本学の教員にはあると信じて、20年間行ってきました。20年間の研究で、ウイルス検査法はほぼ完成しましたが、成人T細胞白血病関連の研究は漸く成果が現れてきたところです。また、アメリカUCSDとの共同研究も医薬品として応用可能な状況になってきました。製品化をも見据えた開発研究をさらに行うべく、来年度からまずは3年間、理工学研究科共同研究講座の教員としてもう一踏ん張りさせていただく予定です。今後ともよろしく申し上げます。

しらなみ会

「しらなみ会会長挨拶」

会長 萩 亮 (昭和52年卒)

国内、県内のコロナ感染者が減少し、人との接触の規制が緩和されるに伴い、飲食店をはじめ経済活動が徐々に正常化の兆しをみせてきました。一方で、新たな変異ウイルス、オミクロン株の感染が気がかりな昨今です。南桜風が皆様の手が届くころには、一体どんな状況になっているのでしょうか。国内の減少傾向が続いていることを祈らずにはおれません。

さて、そんななか、しらなみ会の同窓会活動も思うようにできない1年でした。昨年は隔年で行っている総会懇親会も残念ながら実施できず、緊急避難措置として、役員会をもって決算・予算や事業報告・事業計画等を承認するという形にさせていただき、当面の1年間の活動に対応できるようにしました。ご理解、ご了承のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。今年、総会を開催することができましたら、改めて今年状況を説明させていただきたいと思えます。

新型コロナウイルスの感染が始まってから2年余りがたち、ダメージを受けている業界も少なくありません。土木建設業は、公共事業の比率が高いせいか、比較的影響の少ない部類に入っているようです。今後、どこにひずみや影響が及んでくるのか予断を許さない面もありそうですが、会員の皆様が、この難事をたくましく切り抜け、新年度も元気で活躍されますことを心から祈念致します。

「しらなみ会本部活動報告」

本部庶務幹事 木佐貫 浄治 (平成2年卒)

コロナ禍の中で、学生生活にも大きく影響が出ているとの報道等を耳にし、気になっているところです。

最近(令和3年11月)、感染状況も落ち着いているところですが、なかなか先が見通せない状況には変わりないと思っているところです。

同窓生のみなさんも、コロナの影響を受けながらも、各方面で活躍されている事と存じます。しらなみ会の本部としても、計画どおりの同窓会活動ができない状況です。この様な中、学生を対象に学会旅費等を支援する「しらなみ会研究活動助成事業」については、これまで、学会への参加費用(主に旅費)を支援していましたが、コロナの影響で学会自体が中止になったり、オンラインになったりと旅費を伴わないケースも増えたことから、大学の先生方の配慮により、投稿料など幅広く支援できるようにして、支援事業を継続しています。

本来ならば本年4月に、しらなみ会総会を開催する予定でしたが、コロナ禍の中、開催することは困難と判断し、役員会において、令和元年度・令和2年度の決算及び活動事項を承認させていただきました。また、令和3年度の事業計画及び予算についても承認し、先に紹介した支援事業等の事業を行っているところです。(詳細はしらなみ会HPに掲載中)

引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響や社会情勢を見極めながら、同窓会活動を行いたいと思っています。本部では、引き続き、同窓生皆様の意見を参考にさせていただきながら、同窓会活動を盛り上げたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

メール(木佐貫): george@po.synapse.ne.jp (自宅)

kisanuki-george@pref.kagoshima.lg.jp (勤務先:鹿児島県庁)

総会の出席をはじめ、同窓生の集まり、情報提供、御意見・御要望、何でも結構です。気軽に連絡をください。

[件名に「しらなみ会」という文字を入れていただければ助かります。]

また、しらなみ会ではホームページを立ち上げています。上記の詳細な情報や同窓会活動などについて掲載しています。[[しらなみ会]で検索してください。]

HP: <https://www.oce.kagoshima-u.ac.jp/~shiranami/>

文末になりましたが、同窓生の皆様の更なる御健勝と御活躍を祈念いたします。

また、一番影響を受けているのは学生です。

今の学生達は、コロナ禍の中、不安な気持ちで就職活動等を行わなければなりません。そんな学生達を是非支援していけたらと思っています。各地、各方面で活躍されている同窓生の皆様、よろしくお願ひします。

「関東支部活動報告」

関東支部長 安藤 滋郎(平成7年卒)

平成28年度から令和2年度まで務められました、瀬戸口喜祥様(平成7年卒)から引継ぎ、関東支部長を拝命いたしました。よろしくお願ひいたします。瀬戸口様には、5年ものあいだ関東支部の活発な運営をされましたこと、心より感謝申し上げます。

令和2年度は、コロナ禍による緊急事態宣言発令の影響もあり、活動を行うことができませんでした。例年は、20~30名の同窓生が集まり、懇親を図っているのですが、残念ではありません。今年度は事務局のアイデアで、「ウェブ懇親会」を開催するなど、工夫を凝らして運営していく予定となっていますので、奮ってご参加ください。

残念なお知らせが一つございます。平成27年度まで、長年にわたり関東支部長を務めて頂いた黒木敬司様(昭和56年卒)が令和3年4月22日にご逝去されました。謹んで哀悼の

意を表します。現在の関東支部がごぞいますのも、黒木様のお人柄と、並々ならぬご尽力があつてのものと感じております。

偉大な先輩方から引き継いだ関東支部を、これまでと変わらず活発な関東支部となりますよう、活動していきたいと思っております。コロナ禍の影響は、しばらく続くと思われませんが、関東に学会やお仕事でご出張の際には、是非ご連絡ください。特に学生の方は、歓迎いたしますので、お気軽にお声がけください。



ウェブ懇親会（令和3年6月18日開催）

「関西支部だより」

関西支部長 大田 英司（平成7年卒）

マスクが必需品となり、生活スタイルがすっかり変わってしまった。

これまでのように、鹿児島での生活を懐かしんで先輩後輩が分け隔てなくリアルな交流をはかれる同窓会の開催がなかなか難しい状況であるが、ようやく何度目かの緊急事態が解除され、少し世の中が動き出してきたこのタイミングになんとか規模は小さくとも同窓会を開催できないか検討中である。

コロナを気にせず同窓会を開催できるようになることを切に願っている。

「福岡支部活動報告」

福岡支部長 橋本 康範（平成7年卒）

○令和2年度

コロナ禍のなか、多人数による会合での感染リスクを考慮し、福岡支部の総会と懇親会は中止としております。

また、同様の理由により、令和3年2月20日（土）に開催予定となっておりました、鹿児島大学同窓会連合会福岡支部“福岡北辰斜の会”の総会・講演会・懇親会につきましても中止となっております。

○令和3年度

福岡支部の総会と懇親会につきましては、ワクチン接種の進捗や感染状況をふまえながら、年度内に開催できるよう調整を進めてまいります。詳細は追ってご連絡いたします。



〔コロナ前〕令和元年11月8日（金）支部総会&懇親会の様子

また、鹿児島大学同窓会連合会福岡支部“福岡北辰斜の会”の総会・講演会・懇親会は、令和4年2月19日（土）に開催することで準備を進めていくことが決まりました。

今回はしらなみ会&機友会が共同幹事となっており、しらなみ会が講演会を担当させていただきます。会場の人数制限等、検討する事項がありますが、皆様のご参加と運営へのご協力を頂きますと幸いです。

直接お会いできる機会が減っておりますので、何かありましたら、お気軽に支部長橋本までご連絡ください。

（橋本） hashimoto.y02@city.fukuoka.lg.jp

「鹿児島支部活動報告」

鹿児島支部長 羽田 好勝（昭和59年卒）

令和元年度に「鹿児島支部」が発足いたしました。活動の手始めとして、令和2年11月21日に南九州カントリークラブ伊集院コースで、また、令和3年11月20日に入来城山ゴルフ倶楽部においてゴルフコンペを開催いたしました。

新型コロナウイルスの影響もあり、少人数のコンペとなりましたが、ご参加いただいた皆様と、楽しく健康的な一日を過ごすことができ、今後の活動につながる第一歩を踏み出すことができました。

鹿児島支部では、今後、ゴルフコンペや親睦会などを開催して参りたいと考えておりますので、会員の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

令和3年11月20日のゴルフコンペの写真を添付させていただきます。



令和3年11月20日のゴルフコンペ

鹿児島大学稲盛賞

(令和2年度)

令和2年度 [海洋土木工学科] 松元 慎吾
[環境化学プロセス工学科] 牧島 美輝

鹿児島大学工学部稲盛学生賞

(令和3年度)

令和3年度

[機械工学科]	渡邊 優大	尾ノ上義喜
[電気電子工学科]	平田 幸基	嶋崎 亮太
[建築学学科]	芹口 楓出	永井鷹一郎
[環境化学プロセス工学科]	福留 寛史	伊藤 拓人
[海洋土木工学科]	武中 宏樹	小野木佑徳
[情報生体システム工学科]	中村 太紀	田島 彩音
[化学生命工学科]	高坂 澄怜	原 沙弥加

※(現 理工学研究科博士前期課程 工学専攻化学工学プログラム 1年)

鹿児島大学工学部稲盛学生賞規則第3条により、学部から飛び級した博士前期課程1年生を含む

累積学部長賞・成績優秀賞

(令和2年度)

令和2年度累積学部長賞

[機械工学科]	安倍 嵩士	渡瀬 渉太	阿部 航大	早川 寛士
	脇田 優大	辻 悠莉	入江 将崇	丸尾 央
	加藤 雅也			
[電気電子工学科]	森 城清			
[海洋土木工学科]	松元 慎吾	東元 大介	笛田 泰成	
[環境化学プロセス工学科]	當山 智大	末満 秋菜	牧島 美輝	宮本 大輝
	脇田 大輔			

[化 学 生 命 工 学 科]	橋本 颯 今村 亘	佐藤 亜星 立川鈴之助	内田 陽介 中野 佑美	田浦 諒也
[情報生体システム工学科]	漆野 孝行 佐々木佑輔	梶浦 梨央 小八重 潤	木下 直哉 上高原 建	鍋谷 知哉 石原 栄人
[建 築 学 科]	向井 基紘 松崎 太一 小野 千紘	中村 恭子 鉄 昌樹	今村 萌絵 山本 望愛	永吉 幸介 杉岡 和

令和2年度累積成績優秀賞

[機 械 工 学 科]	三角 太聖 吉満 悠平 荒田 光成 末廣 美輝	大迫 史也 塩手 大貴 鮫島 秀輔 岩崎 圭佑	瀬戸口佑弥 呉 星哉 山本 寛章 笹江 晴貴	下野 航平 山下 和也 村上将太郎 川崎 稜登
[電 気 電 子 工 学 科]	森山 愛希 高木 博賢 十島 明宏 岐本 拓海	石崎 大悟 大木下 潤 千々和 航	三好 幸太 大久保悠志 大迫 光佑	肥後 佳季 山中謙志郎 林 慶悟
[海 洋 土 木 工 学 科]	江崎 奏音 西村 昌高	田西 健将 山口 和貴	白澤 元気 濱崎 琉生	赤鹿 敬尚 石 大地
[環境化学プロセス工学科]	西 利佳子	松永 陸	平川 嵩士	須山 美久
[化 学 生 命 工 学 科]	山下 優輝 菖蒲 康晟 中島 碧	増永 成菜 水間 偉斗 黒木 南奈	小原 弘樹 猪崎 翔 米丸 真帆	大原 遥 仲道 愛菜 川上 未来
[情報生体システム工学科]	北原 啓嗣 前原 秀志 住吉 海斗 諏訪 里奈	津 孔祥 久保田遥菜 深野 大輔	藤澤 大河 新村 宏 京田 和樹	池上 弘一 近田 大輔 中西 駿介
[建 築 学 科]	三宅 智大 元野真衣子 原田 柚香 岩田 有哉	知念 由隆 川崎 璃子 上西 隼斗 山本 賢史	堀川 和南 森 拓斗 永田 雄大 佐藤 大誠	中間 隆寛 松岡 直 西薊 朋美

岸園賞

平成21年4月故岸園司前同窓会会長からの寄付により、平成23年に創設されたのが岸園賞です。対象者は工学部の同窓会会員、学生、大学院生で次の各号の一に該当し、拡大幹事会で決定した会員に与えられます。

- 1) 鹿児島大学工学部の名を高めた者
 - 2) 工学部同窓会活動に尽力した者
 - 3) その他前1) 2) 号と同等以上の表彰に価する行為があったと認められる者
- *平成25年8月23日の会則改正により個人のほか団体も対象となりました。

○これまでの受賞者

- 平成23年 ●袖山 研一氏 (応化61)
●武若 耕司氏 (海土52)
- 平成24年 ●有馬 純治氏 (電気41)
- 平成25年 ●安井建築設計事務所AOI会グループ (関西AOI会事務局)
守安聡司氏 (建築H1) 長崎大典氏 (建築H5)
中原岳夫氏 (建築H7) 奥 貴人氏 (建築H9)
山本善宏氏 (建築H11)
- 平成26年 なし
- 平成27年 ●鹿児島大学工学部同窓会大分県支部グループ
大石 喬氏 (応化37) 和田正遠氏 (建築25)
三原久正氏 (応化28)
●下茂 忍氏 (機械34)
- 平成28年 ●三宅征夫氏 (応化43)
- 平成29年 ●福井泰好氏 (特別会員)
●今村 彬氏 (電気29)
- 平成30年 ●炭谷圭二氏 (機械第二55)
- 令和元年 なし
- 令和2年 ●鹿大北辰会 (機友会)
太田芳明氏 (機械43) 大宮司尚氏 (機械43)
堤 直敏氏 (機械43) 柿元邦彦氏 (機械第二43)
- 令和3年 なし

令和4年3月卒業及び修了生進路

(令和3年12月現在)

機械工学科

【令和4年】

合同会社Acoustic DuB
NECフィールディング(株)
(株)沖電工
国立大学法人鹿児島大学
(株)九州タブチ
極東産機(株)
(株)熊本銀行
国土交通省
五洋建設(株)
サツマ酸素工業(株)
三協フロンテア(株)
芝浦機械(株)
(株)ジャパンセミコンダクター
新明和工業(株)
住友理工(株)
セイコー化工機(株)
ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)
SOLIZE(株)
(株)大気社
ダイキンHVACソリューション九州(株)
高砂熱学工業(株)
(株)高田工業所
(株)タカミヤ
タカラスタンダード(株)
(株)椿本チエイン
テクノブレイブ(株)
テルモ(株)
(株)東急エージェンシー
東郷メディキット(株)
(株)トヨタ車体研究所
西日本技術開発(株)
日本ガス(株)
日本電子材料(株)
延岡市役所
ハウス食品(株)
パナソニックデバイスSUNX九州(株)
(株)日立プラントサービス
訪問介護事業所あいので
(株)ホンダテクノフォート
マツダ(株)
宮崎電子機器(株)
(株)メイテック
メタウォーター(株)

(株)モビテック
(有)柳川鉄工
鹿児島大学大学院理工学研究科
東京工業大学大学院
筑波大学大学院
航空大学校

工学専攻機械工学プログラム

【令和4年】

(株)IHI
朝日インテック(株)
旭化成(株)
(株)荏原製作所
オムロン(株)
キヤノン(株)
京セラ(株)
熊本県警
(株)栗本鉄工所
西部ガス(株)
昭和電工(株)
(株)SCREENホールディングス
住友重機械建機クレーン(株)
象印マホービン(株)
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)
大和冷機工業(株)
高砂熱学工業(株)
(株)タマディック
(株)椿本チエイン
(株)デジタルメディアプロフェッショナル
デンソーテクノ(株)
東京エレクトロングループ
トヨタ自動車九州(株)
(株)トヨタ車体研究所
日産自動車(株)
日鉄鉱業(株)
パナソニック(株)
(株)日阪製作所
(株)日立製作所
(株)富士通ゼネラル
富士電機(株)
古河電気工業(株)
マツダ(株)
(株)マルマエ
三島光産(株)

三菱ケミカルエンジニアリング(株)
三菱電機プラントエンジニアリング(株)
ミネベアミツミ(株)
(株)ユー・エム・アイ
(株)LIXIL

電気電子工学科

【令和4年】

アルプスアルパイン(株)
NECファシリティーズ(株)
NECプラットフォームズ(株)
鹿児島県庁
東芝システムテクノロジー(株)
トーテックアメニティ(株)
(株)ドコモCS九州
西日本映像(株)
日研トータルソーシング(株)
(株)日立パワーデバイス
富士電機(株)
三菱電機システムサービス(株)
三菱電機ビルテクノサービス(株)
ミネベアミツミ(株)
(株)ユピテル鹿児島
ルネサスエレクトロニクス(株)
鹿児島大学大学院理工学研究科 44名
九州大学大学院 2名
筑波大学大学院
東京工業大学大学院

工学専攻電気電子工学プログラム

【令和4年】

(株)アイシン
アズビル(株)
SBエンジニアリング(株)
NECソリューションイノベータ(株)
NECプラットフォームズ(株)
鹿児島県職員
川崎重工(株) 2名
関西電力(株)
九州電力(株) 2名
京セラ(株) 3名
サトーホールディングス(株)
JFEプラントエンジ(株)

セイコーエプソン(株)
 ソニー LSIデザイン(株) 3名
 ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)
 (株)ダイヘン
 中外炉工業(株)
 東芝ITコントロールシステム(株)
 東芝情報システム(株)
 東芝三菱電機産業システム(株) 2名
 パナソニック(株)
 (株)日立製作所
 ファナック(株)
 富士通(株) 2名
 富士電機(株) 3名
 三菱電機コントロールソフトウェア(株)
 (株)村田製作所
 (株)安川電機
 ルネサスエレクトロニクス(株)

情報生体システム工学科

【令和4年】

情報技術開発(株)
 OKIソフトウェア
 SATT九州(株)
 WISHシステムコンサルティング
 エコー電子工業内定
 (株)システムソフト
 シティアスコム
 セールスフォースドットコム
 ソウルドアウト(株)
 ソフトマックス(株) (自由)
 テクノプロデザイン(株)
 ドコモ・テクノロジー(株)
 ドコモCS九州
 トヨタ車体研究所
 パーソルR&D(株) 自由応募
 (株)エヌ・ティ・ティ・データ九州
 (株) マーキュリー
 (株)南日本情報処理センター
 (株)日立産業制御ソリューションズ
 (株)Qtnet
 (株)VSN
 (株)インフォメーションクリエイティブ
 (株)ゼネット
 (株)ソフトサービス
 (株)ダイブレイク内々定
 (株)テンフィールドズファクトリー
 (株)トランスネット

(株)ベリサーブ
 (株)伊藤忠テクノソリューションズ
 (株)鹿児島データアプリケーション
 (株)南日本情報処理センター
 広島県中小企業共済協同組合
 鹿児島大学大学院理工学研究科
 凸版印刷(株)
 日本生命
 富士通Japanソリューションズ九州社

工学専攻情報・生体工学プログラム

【令和4年】

NEC ソリューションイノベータ
 BEENOS
 NECプラットフォームズ(株)
 PFU
 クラウドエース(株)
 ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)
 ソフトバンク(株)
 デイスコ
 デンソーテクノ(株)
 トヨタシステムズ(株)
 半田重工業
 ピクオス(株)
 ローランド(株)
 (株)インターネットイニシアティブジャパン
 (株)LAC
 (株)NTTデータ・アイ
 (株)アクア
 (株)オブティム
 (株)マイスティア
 (株)ラック
 (株)九州日立システムズ
 (株)日立システムズ
 (株)富士通エフサス
 九州電力(株)
 (株)ウイルテック
 東京エレクトロングループ
 朋栄(株)

建築学科

【令和4年】

(株)粹工舎
 (株)大建設計
 高砂熱学工業(株)
 宮崎市役所

(株)前田組
 九鉄工業(株)
 五洋建設(株)
 宮崎県庁
 大和ハウス工業(株)
 京都工芸繊維大学大学院
 (株)関家具
 (株)アウトソーシングテクノロジー
 大和リース(株)
 (株)日建技術コンサルタント
 (株)ESTERAS
 (株)総合舞台
 (株)類設計室
 ジーク(株)
 (株)Lib Work
 フジタビルメンテナンス(株)
 (株)大林組
 (株)大京穴吹建設
 (株)ユニマル
 (株)大林組
 鹿児島県庁
 大阪市立大学大学院
 東京大学大学院
 早稲田大学大学院
 京都工芸繊維大学大学院
 東京都立大学大学院
 鹿児島大学大学院理工学研究科

工学専攻建築学プログラム

【令和4年】

鹿島建設(株)
 大和ハウス工業(株)
 (株)衛藤中山設計
 (株)丹青社
 (株)フジタ
 JFEシビル(株)
 ユニオンシステム(株)
 (株)大林組
 YKK AP (株)
 エアポートメンテナンスサービス(株)
 東九州設計工務(株)
 (株)INA新建築研究所
 東芝ライテック(株)
 (株)谷川建設
 (株)鉄建建設
 清水建設(株)
 (株)銭高組

(株)酒井建築事務所
(株)大林組
(株)傳設計
ジーク(株)
東レ建設(株)
中国電力(株)
竹中工務店
(株)IFOO

環境化学プロセス工学科

【令和4年】

鹿児島県庁
鹿児島市役所
福岡市役所
九州管区警察局
アウトソーシングテクノロジー
アサダメッシュ
サナス
ジンジブ
新日本科学
大気社
ダイモンアプライドシステム
千代田工商
トータルハウジング
日鉄パイプラインエンジニアリング
西日本シティ銀行
鹿児島大学大学院理工学研究科
九州大学大学院総合理工学府

工学専攻化学工学プログラム

【令和4年】

デンカ
旭化成エンジニアリング
アサダメッシュ
宇部興産
京セラ
クレハ
コスモエンジニアリング
テルモ山口
東亜合成
ラピスセミコンダクタ

化学生命工学科

【令和4年】

出水市役所

鹿児島市役所
熊本県庁
化学物質評価研究機構
アドバンテック
アルプス技研
現場サポート
沢井製薬
サンケイ化学
システムデザイン
ストライプインターナショナル
電通国際情報サービス
OSTech
鹿児島大学大学院理工学研究科
鹿児島大学大学院医歯学研究科
大阪大学大学院
長崎大学大学院
九州工業大学大学院
東京工業大学物質理工学院

工学専攻化学生命工学プログラム

【令和4年】

井上香料製造所
大塚電子
沖電気
関西ペイント
キオクシアシステムズ
堺化学工業テクセリアルズ
住化分析センター
生化学工業
ソニーセミコンダクタマニファクチャリング
第一三共バイオテック
大気社
太陽日酸
デンカ
日本血液製剤機構
富士レビオ
前畑産業
NECソリューションイノベータ
鹿児島大学大学院博士後期課程

海洋土木工学科

【令和4年】

前田建設工業
安藤・間
五洋建設
東亜建設工業

若築建設
南生建設
三井共同建設コンサルタント
萩原技研
日本道路
西日本エンジニアリング九州
函南木材
国土交通省中部地方整備局
鹿児島市役所
福岡市役所
長崎県庁
ハイサイド
鹿児島工業高等専門学校
鹿児島大学大学院理工学研究科

工学専攻海洋土木工学プログラム

【令和4年】

大林組
安藤・間
東洋建設
日本工営
中央コンサルタンツ
セントラルコンサルタント
応用地質
いであ
パスコ
ケミカル工事
西日本高速道路
日水コン
鹿児島県庁
鹿児島市役所

同窓会役員名簿および部会

令和4年1月現在

顧問	木下英二 (工学部長)
会長	宮城泰児 (建築58)
副会長	5部会会長 (次頁)
庶務幹事	鷹野敦 (建築H14)
会計幹事	吉留俊史 (応化60)
編集幹事	福原稔 (機械56)
監事	重井徳貴 (電気H4)
	濱田成敏 (海士61)

【評議員】

◆機友会 (機械工学科、機械工学第二学科 機械工学プログラム)

浜崎和則 (39) 米倉真一 (40)
 福原稔 (56) 池田清和 (56)
 江口之浩 (H1) 野妻光彦 (H1)
 岡元徹 (H2) 熊澤典良 (特別会員)
 駒崎慎一 (特別会員)

◆南窓舎密会 (応用化学科、化学工学科、応用 化学工学科、生体工学科 (生体 機能材料工学コース)、環境化学 プロセス工学科、化学生命工学科、 化学工学プログラム、化学生命工 学プログラム)

鎌田薩男 (34) 染川賢一 (39)
 下茂徹朗 (46) 大竹孝明 (52)
 吉留俊史 (60) 安藤浩毅 (H2)
 伊藤博雅 (44) 中島常憲 (H6)
 小幡透 (H7) 有水伸一 (H7)

◆錦水会 (電気工学科、電子工学科、電気電 子工学科、情報工学科、生体工学 科 (生体電子工学コース)、情報 生体システム工学科、電気電子工 学プログラム、情報・生体工学プ ログラム)

永野博 (46) 権藤正信 (52)
 本田博 (52) 小田博昭 (47)
 池田浩二 (51) 小川重訓 (54)
 淵田孝康 (63) 鹿嶋雅之 (H11)
 川越明史 (H9) 向田善博 (H9)

◆しらなみ会 (海洋土木開発工学科、 海洋土木工学科、 海洋土木工学プログラム)

武若耕司 (52) 萩亮 (52)
 濱田成敏 (61) 羽田好勝 (59)
 木佐貫浄治 (H2) 山中浩平 (H2)
 審良善和 (H11) 濱園誠 (H13)
 長山昭夫 (H16) 小池賢太郎 (H23)

◆A O I 会 (建築学科、建築学プログラム)

守真和弘 (41) 末吉重栄 (44)
 宮城泰児 (58) 渡島秀夫 (H2)
 肥後潮一郎 (H4) 日野真琴 (H7)
 川畑忠行 (H8) 藤井英俊 (H10)
 峰元信明 (H13)

工学部同窓会事務局
 窪田玲子 TEL/FAX 099-285-3494
 学内TEL/FAX 8317

部会各支部役員名簿

◆機友会

会	長	皮籠石 紀 雄 (45)
庶務幹事	幹事	福原 稔 (56)
会計幹事	幹事	熊澤 典良 (特別会員)
編集幹事	幹事	洪駒 崎 慎一 (特別会員)
編集副幹事	幹事	松崎 健一郎 (特別会員)
監事	幹事	吉満 正 美 (53)
監事	幹事	谷口 康太郎 (H17)
関東支部長		内門 暉 史 (43)
中京支部長		齋藤 和 幸 (47)
関西支部長		西信 一郎 (44)
福岡支部長		田中 宣 秀 (58)

◆錦水会

会	長	葉山 勝 年 (41)
副会	長	永野 博 博 (46)
副会	長	小田 博昭 (47)
庶務幹事	幹事	向田 善昭 (H 9)
会計幹事	幹事	曲田 畜 二 (46)
編集幹事	幹事	小川 重 訓 (54)
監事	幹事	濱田 信 之 (41)
監事	幹事	原口 俊 幸 (53)
学内庶務幹事	幹事	測田 孝 康 (63)
学内会計幹事	幹事	川越 明 史 (H 9)
学内編集幹事	幹事	鹿嶋 雅 之 (H11)
関東支部長		田原 洋 一 (47)
関西支部長		白石 石 司 (59)
東海支部長		永野 博 (46)
福岡支部長		権藤 正 信 (52)
熊本支部長		小田 博 昭 (47)
宮崎支部長		本田 博 (52)
鹿児島支部長		池田 浩 二 (51)

◆AOI会

会	長	武田 敏 郎 (42)
副会	長	徳富 久 二 (42)
顧問	長	川上 道 夫 (34)
庶務幹事	幹事	塩屋 晋 一 (57)
会計幹事	幹事	曾我 和 弘 (H 6)
編集幹事	幹事	増留 麻紀子 (H11)
監事	幹事	揚村 固 (48)
監事	幹事	下山 道 男 (55)
関東支部長		荻野 廣 己 (45)
関西支部長		瀬山 憲 正 (47)
北九州支部長		佐伯 憲 二 (48)
大分支部長		和田 正 遠 (25)
宮崎支部長		安部 洋 人 (46)

◆南窓舎密会

会	長	下 茂 徹 朗 (46)
副会	長	有 水 伸 一 (H 7)
監事	幹事	大 橋 孝 明 (52)
監事	幹事	安 藤 周 平 (H 6)
代表幹事	幹事	山 藤 浩 毅 (H 2)
庶務幹事	幹事	山 元 和 哉 (H 8)
庶務幹事	幹事	伊 藤 博 雅 (44)
庶務幹事	幹事	山 本 高 師 (53)
庶務幹事	幹事	東 正 樹 (H 8)
庶務幹事	幹事	西 幸 治 (5 5)
庶務幹事	幹事	鳥 原 誠 修 (H 4)
庶務幹事	幹事	黒 木 修 (H 5)
庶務幹事	幹事	満 塩 勝 博 (H 6)
庶務幹事	幹事	田 中 博 (44)
庶務幹事	幹事	山口 やよい (58)
庶務幹事	幹事	下之 蘭 太 孝 介 (H15)
庶務幹事	幹事	森 永 卓 朗 (H22)
庶務幹事	幹事	中 島 常 憲 (H 6)
庶務幹事	幹事	小 幡 透 (H 7)
庶務幹事	幹事	鶴 田 将 真 (H22)
庶務幹事	幹事	鮫 島 宗 一郎 (論博H13)
庶務幹事	幹事	吉 田 昌 弘 (特別会員)
庶務幹事	幹事	徳 永 正 勝 (59)
庶務幹事	幹事	東 海 支 部 長 種 子 田 實 郎 (41)
庶務幹事	幹事	関 西 支 部 長 田 中 讓 次 (46)
庶務幹事	幹事	北 九 州 支 部 長 古 川 睦 久 (42)

◆しらなみ会

会	長	萩 亮 (52)
副会	長	羽 田 好 勝 (59)
監事	幹事	濱 田 成 敏 (61)
庶務幹事	幹事	木佐 貫 浄 治 (H 2)
庶務副幹事	幹事	審 良 善 和 (H11)
庶務副幹事	幹事	長 園 誠 (H13)
庶務副幹事	幹事	会 計 副 幹 事 長 山 昭 夫 (H16)
庶務副幹事	幹事	編 集 幹 事 山 中 浩 平 (H 2)
庶務副幹事	幹事	編 集 副 幹 事 小 池 賢 太 郎 (H23)
庶務副幹事	幹事	東 北 支 部 長 山 田 満 秀 (H 7)
庶務副幹事	幹事	関 東 支 部 長 瀬 戸 口 喜 祥 (H 7)
庶務副幹事	幹事	関 西 支 部 長 大 田 英 司 (H 7)
庶務副幹事	幹事	福 岡 支 部 長 橋 本 康 範 (H 7)
庶務副幹事	幹事	鹿 児 島 支 部 長 羽 田 好 勝 (59)

◆工学部同窓会大分県支部

支 部 長	大 石 喬 (応化 37)
副 支 部 長	清 田 善 之 (建築 46)
幹 事 長	渡 辺 高 行 (機械 49)
顧 問	和 田 正 遠 (建築 25)

本部 だより

令和2年度

鹿児島大学工学部同窓会 評議会、総会報告

日時：令和3年2月15日(月)～令和3年

2月27日(土) 書面会議にて実施

参加人数：評議員49名、会員26名 計75名

審議内容：

議題1. 平成30年度～令和2年度の行事・
会議報告(庶務関係)

○異議なく承認。

議題2. 平成30年度～令和2年度の会報・
名簿発行報告(編集関係)

○異議なく承認。

議題3. 平成29年度～令和元年度の会計報
告(会計関係)

○異議なく承認。

質問) 納付者数の減少、特に令和元年度
の減少について。

回答) 令和元年度の適切な分析は行っ
ていない。現在の同窓会事務局
の対応は、①合格通知書に同
窓会案内(払込取扱票含む)を
同封する、②未納者には督促状
にて連絡、③②に併せて在籍者未
納者へも督促状送付、④卒業、
修了前に部会へ連絡し、納付協
力をお願いを伝える、ことを実
施。今後、新入生オリエンテー
ションなどで同窓会への理解
と、納付の協力を仰いでいく予
定である。*回答内容は抜粋

議題4. 平成29年度～令和元年度の会計監
査報告

○異議なく承認。

議題5. 役員交代

○任期：令和3年4月1日～令和6年
3月31日

会長 宮城泰児 建築58

庶務幹事 鷹野 敦 建築H11

編集幹事 福原 稔 機械56

会計幹事 吉留俊史 応化60

監事(学外) 濱田成敏 海土61

監事(学内) 重井徳貴 電気H4

○異議なく承認。

議題6. 会則改訂

○正会員の追加

第4条 1、正会員：・・・(略)・・・
理工学研究科(工学専攻)修了生お
よび在学生 下線部追加

○異議なく承認。

議案7. 会則改訂

○栄誉会員の新設

第4条 4、栄誉会員：本会に対し
て特別の貢献のあった正会員で、総
会の決議により推薦されたもの
新設

○栄誉会員新設については異議なく承
認。

会則修正追加要求案) 社会及び本会に対
して、下線部を追加の要求

回答) 社会への貢献と考えると対象範
囲が広くなり、検討が難しくな
る。当面はそれを加味しつつも
本会に対しての貢献、お力添え
を主に選考したい。

*回答内容は抜粋

議案8. 栄誉会員の推挙

○稲盛和夫氏と岸園司氏が推挙され、
承認を得た。

令和3年度

鹿児島大学工学部同窓会 拡大幹事会報告

日時：令和3年8月23日(月)～令和3年

8月27日(金)

新型コロナウイルスの感染状況を
鑑み、メール会議にて実施された。

参加者：

本部 宮城泰児会長、鷹野敦庶務幹事、福
原稔編集幹事、吉留俊史会計幹事、
濱田成敏会計監事、重井徳貴会計監

HONBU DAYORI

事、松永洋文前同窓会会長

機友会 皮籠石紀雄副会長、福原稔庶務幹事、洪定約会計副幹事、松崎健一郎編集副幹事

錦水会 葉山勝年会長、淵田孝康庶務幹事、川越明史会計幹事、鹿嶋雅之編集幹事

AOI会 塩屋晋一庶務幹事、鷹野敦会計幹事、増留麻紀子編集幹事、二宮秀與先生、曾我和弘先生

南窓舎密会 下茂徹朗会長、大竹孝明監事、橋口周平監事、山元和哉庶務幹事、満塩勝會計幹事、増永卓朗会計幹事

しらなみ会 萩亮会長、羽田好勝副会長、審良善和庶務幹事、長山昭夫会計幹事、小池賢太郎編集幹事、山城徹先生、三隅浩二先生、木村至伸先生、酒匂一成先生

事務員窪田玲子 計34名

議題1. 令和2年度同窓会運営報告

1) 令和2年度行事および会議報告

○令和2年度の庶務、編集、会計幹事会の内容。

2) 令和2年度本部会計決算報告

○一般会計、岩崎基金、岸園基金についての決算。

3) 会計監査報告

○令和3年6月8日に会計監査を実施。

4) 同窓会名簿第16号第2版CD発行報告

○発行数、発行費など。

5) 会報「南桜風」第18号発行報告

○製本数、発送数、諸経費など。

1) ~ 5) について異議なく承認された。

議題2. 令和3年度同窓会運営計画

1) 令和3年度同窓会行事および会議報告と計画

○新型コロナウイルス感染症のため各会議はZoom開催や、中止が多い。

2) 令和3年度本部会計予算案

○今年度の事業に関する予算計画を提示。

3) 会費納入状況および本部・部会への

配分額

○外国人、編入者は6月25日現在の納入者での計上。

○共通クラスの学生分は本部預かりとし、後期割当金にて所属部会へ配分する。

* 9月3日に部会指定口座へ入金済み。

4) 同窓会名簿第16号第3版CD発行計画

○印刷業者、発行数、予算案を提示。

5) 会報「南桜風」第19号発行計画

○印刷業者、見積もり、今後の流れを提示。

6) 工学部同窓会学生諸活動助成の募集について

○例年通りの募集を実施する。

7) 工学部同窓会諸活動支援の募集について

○例年通り募集する。

○コロナ禍であることを踏まえ、オンライン会議も支援の対象とみなす。

8) 栄誉会員の紹介パネル設置について

○令和2年度の総会にて承認を得られた、稲盛和夫氏と岸園司氏の紹介パネルを工学部内に設置する計画。

1) ~ 8) について異議なく承認された。

議題3. 各部会行事報告と計画

○機友会：福原庶務幹事、錦水会：淵田庶務幹事、AOI会：塩屋庶務幹事、南窓舎密会：山元庶務幹事、しらなみ会：木佐貫庶務幹事から資料における報告。

○いずれも異議なし。

議題4. その他

1) 工学部創立75周年記念事業の総括

○松永洋文期成会会長より期成会事業の総括がなされた。募金状況の推移、趣意書発行、期成会の経費内訳、寄附金部会ごとの詳細を提示。

○質問は紙面により回答がなされた。

2) 同窓会役員名簿

○変更がある際は事務局へ連絡を請う。

* 例年、拡大幹事会後に開催の司会は今年度中止。

～新型コロナウイルスの収束を願いますと共に、これまでのように会員の皆様方と集い、心置きなく語り合える日が一日も早く訪れることを願っております。～

令和2年度 会計報告

会計幹事 吉留 俊史 (応化S60年卒)

令和2年度と同窓会本部の一般会計、岩崎基金、岸園基金について、別表に従って収支決算を報告させていただきます。

一般会計の主な収入は前年度繰越金(9,252,684円)と学部の新入生、編入学生等が納入する同窓会終身会費(20,000円/人×411人=8,220,000円)です。これらの収入に会報広告代、預貯金利子を合わせて、歳入の合計金額は17,583,821円となりました。主な支出としては、各部会への終身会費の支払い(3,600,000円)、本部運営関連経費(1,308,960円)、書面会議で行われた同窓会評議会・総会の経費(625,792円)、会報「南桜風」18号発行費(2,853,105円)、令和2年度学部卒業生に配布した同窓会追録名簿16号第2版の発行費(555,600円)、役員会・評議会等運営費(23,605円)、同窓会連合会分担金(100,000円)、本部役員出張費(0円)、大分県支部総会補助費(0円)、同窓会本部部屋の借り受け金と工学部事務助成費(193,800円)、学生の諸活動助成費(0円)がありました。その他の支出として、工学部創立75周年記念事業関係の費用として3,000円、慶弔費(12,160円)等がありました。歳出の合計金額は9,276,022円でした。この結果、歳入から歳出を差し引いた8,307,799円を次年度へ繰り越すことになりました。

岩崎基金について、歳入は前年度繰越金と預金利息の12,888,549円で、支出では新型コロナウイルス感染症対策費として500,000円の工学部助成を行いました。12,388,549円を次年度へ繰り越すことになりました。

岸園基金について、歳入は前年度繰越金と利息の23,353,763円で、支出として、岸

園賞1件記念品費(50,000円)、新型コロナウイルス感染防止のため、司(つかさ)会開催経費(0円)、前年度岸園賞受賞者旅費(0円)、諸活動支援費(0円)、また、75周年記念事業の活動経費として各部会に100,000円(合計500,000円)を支援いたしました。22,798,813円を次年度へ繰り越すことになりました。

令和3年度 鹿児島大学同窓会連合会総会報告

日時：令和3年5月12日(水)～5月21日(金)

形式：書面会議

役員総数：57名(会長、副会長9名、代表幹事、幹事9名、評議員35名、監事2名)

*工学部関係者6名

- 協議事項：1) 令和2年度事業報告
2) 令和2年度収支決算
3) 令和3年度事業計画
4) 令和3年度収支予算
5) 役員改選について

議事の経過及び議決の結果：

議長から各学部同窓会事務局を通じて各役員へ「協議事項説明概要」を添えて議事資料を配布し、各議案について賛否を諮ったところ、全員から「書面議決書」にて意思表示があったので、全員が出席したものとみなし、本総会は成立した。

議長は、全ての書面議決書の内容を確認し、審議内容結果に相違ないことを確認した。

令和2年度一般会計決算

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

歳入総額	17,583,821
歳出総額	9,276,022
差引残高	8,307,799

管理状況	金額	備考
通帳①: 郵貯通常貯金	2,631,873	
通帳②: 郵貯定期貯金	5,660,789	H30年度より新入生からの会費5%程度を通常貯金から定期貯金へ振替え 周年事業準備基金に充てる
定期貯金	5,000,706	
定期貯金 周年事業準備基金	660,083	
現金	15,137	
合計	8,307,799	

(歳入)

項目	R2予算額	R2決算額	差額注(2)	R2決算の備考
前年度繰越金	9,252,684	9,252,684	0	(注1)
本年度入学者納付金	8,840,000	7,420,000	-1,420,000	371×2万
本年度外国人入学者納付金	20,000	60,000	40,000	3×2万
本年度編入学者納付金	260,000	320,000	60,000	16×2万
本年度博士課程入学者納付金	80,000	80,000	0	4×2万
以前の入学者納付金	40,000	280,000	240,000	14×2万
以前の編入・外国人・博士納付金	0	60,000	60,000	3×2万
小計	18,492,684	17,472,684	-1,020,000	
会報18号広告代	50,000	70,000	20,000	2社
預貯金利子	500	504	4	郵貯普通41、定期貯金463
雑収入	0	40,633	40,633	会費2重払い等 払込取扱票 再発行手数料戻し
合計	18,543,184	17,583,821	-959,363	

(注1) R2予算額の前年度繰越金9,252,684円=(R1歳入額)15,379,426円-(R1歳出額)6,126,742円

(歳出)

項目	R2予算額	R2決算額	差額注(2)	R2決算の備考
(各代会割当金)(注3)				
機友会	1,020,000	990,000	-30,000	91/91、編6、博1、前外1、
錦水会	1,670,000	1,030,000	-640,000	122/155、編5、博1、前4
しらなみ会	500,000	400,000	-100,000	41/50、編1、前外1、前3
南窓舎密会	840,000	660,000	-180,000	72/91、前外1、前6
AOI会	610,000	460,000	-150,000	45/55、外3、編4、博2、前1
未納学生の退学・除籍の部会への返金	60,000	60,000	0	機1、錦2、しらなみ0、南3、AOI 0
小計	4,700,000	3,600,000	-1,100,000	
(本部運営関連)				
会長経費	40,000	40,000	0	
庶務経費	40,000	40,000	0	
会計経費	40,000	40,000	0	
編集経費	40,000	40,000	0	
事務員給与	1,030,000	999,964	-30,036	
通信費	60,000	45,886	-14,114	通帳手数料(4,976)を含む
事務費	150,000	103,110	-46,890	
小計	1,400,000	1,308,960	-91,040	
同窓会評議会・総会	700,000	610,000	-90,000	錦水会15万、機友会・南窓13万、 AOI・しらなみ10万
旅費補助	40,000	0	-40,000	
書面会議における通信切手代	0	15,792	15,792	書面会議における通信経費
小計	740,000	625,792	-114,208	
会報「南桜風」18号発行費	2,750,000	2,853,105	103,105	製本、郵送代、不明者調査
追録名簿(16号第2版)発行費	650,000	555,600	-94,400	R2年度卒業生
役員会・評議会等運営費	150,000	23,605	-126,395	連合会懇親会は中止
鹿児島大学同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	R2年度分
本部役員出張旅費	120,000	0	-120,000	大分県支部総会中止 同窓会連合会関東支部総会中止
大分県支部総会補助金	0	0	0	2,000円/人 R2年度は中止
不動産借り受け料	63,800	63,800	0	
工学部事務助成費	130,000	130,000	0	助成費
学生諸活動助成費	225,000	0	-225,000	各学科諸活動、工学部体育祭 実施されず
小計	4,188,800	3,726,110	-462,690	
工学部創立75周年記念事業関係	50,000	3,000	-47,000	期成会通信費補助として
小計	50,000	3,000	-47,000	
慶弔費	100,000	12,160	-87,840	第六代同窓会会長 東真人様 香典、お供え
予備費	7,364,384	0	-7,364,384	
小計	7,464,384	12,160	-7,452,224	
合計	18,543,184	9,276,022	-9,267,162	

(注2) 差額はR2決算額-R2予算額(単位円)

(注3) 令和2年度より一括枠導入に伴い、部会の予算額は工学部目安の定員を参考とする。

令和2年度の歳入決算額17,583,821円-令和2年度の歳出決算額9,276,022円=8,307,799円を令和3年度へ繰り越す。

令和2年度 岩崎基金決算

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

通帳③ みずほ普通預金	12,388,549
合計	12,388,549

(歳入)

項目	R2予算額	R2決算額
前年度繰越金	12,888,445	12,888,445
みずほ普通預金利息	0	104
合計	12,888,445	12,888,549

(歳出)

項目	R2予算額	R2決算額	備考
工学部助成	500,000	500,000	新型コロナウイルス感染症対策費として
合計	500,000	500,000	

令和2年度の歳入決算額12,888,549円-令和2年度の歳出決算額500,000円=12,388,549円を令和3年度へ繰り越す。

令和2年度岸園基金決算

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

通帳④ 鹿銀普通預金	2,785,254
通帳⑤ 鹿銀定期預金	20,013,559
合計	22,798,813

(歳入)

項目	R2予算額	R2決算額
前年度繰越金	23,352,042	23,352,042
鹿銀普通預金利息	0	26
鹿銀定期預金利息	0	1,695
合計	23,352,042	23,353,763

(歳出)

項目	R2予算額	R2決算額	備考
岸園賞	250,000	50,000	機友会「鹿大 北辰会」
司(つかさ)会 補助金	0	0	新型コロナウイルス感染防止の為 中止
司(つかさ)会 岸園賞受賞者 旅費補助	0	0	
諸活動支援金	700,000	0	新型コロナウイルス感染防止の為 実施されず
75周年記念事業支援金	500,000	500,000	特別支援金
各部会指定口座への振込手数料	0	4,950	通帳に記載
合計	1,450,000	554,950	

令和2年度の歳入決算額23,353,763円-令和2年度の歳出決算額554,950円=22,798,813円を令和3年度へ繰り越す。

つかさかい 司会の報告

令和3年度の^{つかさかい}司会は新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、実施を見送りました。

これまで、拡大幹事会後の会として、前年の岸園賞受賞者による講話をはじめとし、学科（PG）の枠を超えた交流を図る会として恒例の会となっただけに、2年続けての中止は大変残念です。

次年度も状況を踏まえながら開催を判断することとなりますが、実施できるよう願っております。



工学部同窓会大分県支部総会

第41回を迎える大分県支部総会でしたが、令和2年度に続き中止となりました。

大石喬支部長の談「長く開催していただけに、2年続けての実施見送りはとても残念。4年度以降は開催する予定ですので、大分近隣にお住いの会員の皆様は、是非足をお運びください。」

鹿大「進取の精神」支援基金

令和3年度報告

大学が提唱し設立した『鹿大「進取の精神」支援基金』への寄附金は、グローバルな視点を有する地域人材育成のため、学生の海外派遣や留学生受入支援、若手研究者の育成、支援を進める目的で使用されています。工学部同窓会を含む各学部同窓会からも寄附を受けており、工学部同窓会は平成29年に300万円を拠金しています。

－令和3年度事業計画－

■学生海外派遣事業 2,010万円

(内訳)

- A. 長期派遣留学（10週間～1年）：212万円（3名）
- B. 中期派遣留学（31日～90日）：1,008万円（56名）
- C. 地域貢献型海外研修（30日以内）：652万円（116名）
- D. 海外活動事前準備教育：108万円
- F. 事業運営費：30万円

■留学生受入推進事業 1,400万円

(内訳)

- A. 研究留学生受入推進プロジェクト：568万（8名）
 - R2からの延期2名：142万円
 - 留学生支援6名：288万円
 - 往復旅費等支援6名：120万円
 - チューター謝金6名：18万円
- B. 協定校学部留学生地域交流推進プロジェクト：455万（5名）
 - R2からの延期2名：182万円
 - 留学生支援3名：264万円
 - チューター謝金：9万円
 - 事業運営費：377万円

■大学の世界展開力強化事業 990万円

- 受入学生支援：270万円
- 引率教員等コース運営：200万円
- 事前外国語学習・TOEFL模試：242万円
- 打合わせ等旅費：30万円
- その他運営費：248万円

■若手研究者支援事業 500万円（4名）

- A. 地域貢献型若手教育海外研究支援4名：500万円
 - R2からの延期2名：250万円
 - 海外滞在費支援2名：250万円

■管理経費 100万

本事業による海外派遣・留学生受入支援者数 計192名

*令和3年度事業はコロナ禍による海外渡航・入国制限の影響により、令和2年度に引き続き多くが実行できない見通しである。

工学部同窓会諸活動支援報告

令和3年度

部 署：南窓舎密会

企 画：講演会「先輩の話を聞いてみよう」

(共催 化学工学プログラム、化学生命工学プログラム、南窓舎密会)

活 動 日：令和3年10月9日(土)

活動場所：鹿児島大学 工学部化学生命工学科棟 42号教室および遠隔システム上

参加者110名(遠隔100名42号教室10名)

企画内容：講演会「先輩の話を聞いてみよう」は、大学を出て10年以上経過した先輩方がどのような仕事をしているのか、どのような学生を企業は望んでいるのか等、諸々の話を現役学生を含む同窓生に聞いてもらおうという企画で、2プログラムおよび南窓舎密会の共催である。今年度は遠隔による講演とし、より参加しやすい環境を整えた。

成果報告：講演会では2件の講演があり、仕事内容の紹介、エピソード、仕事での心構え、企業が望む学生像等の話があり、現役学生を含む同窓生・教員等は熱心に聞き入っていた。いずれも就職後あるいは就活に生かされるものであった。演者も自らの仕事や会社を紹介することができ、有用な情報交換や交流が行われた。

講演1. 山口やよい氏(昭和58年 応化卒、鹿児島県薬剤師会)

「公益性を有する試験検査事業の展開

～水・食品・医薬品等の検査を通じて～」

講演2. 有水伸一氏(平成9年 応化工修了、株式会社サナス)

「食品工場での化学工学の活用」

みつお まさる
(満塩 勝 助教)



山口 やよい 氏



有水 伸一 氏

部 署：AOI会

企 画：AOI会 建築ナビ「先輩と進路・就職を語る会」

活 動 日：令和3年11月13日（土）

活動場所：鹿児島大学工学部 稲盛会館 + オンライン

（稲盛会館約100人+オンライン約120名 計約220名）

企画内容：第一線で活躍されている卒業生による講演会。社会的経験、人生観等後輩へ伝えたい事を講演して頂くとともに、在学生と先輩との情報交換を目的とする。

成果報告：本年度は、稲盛会館で講演を行うと同時にオンラインで配信するハイブリッド方式で開催、4名の卒業生にご講演頂いた。また、後藤様には、遠くイギリスから参加頂き、鹿児島とロンドンをオンラインでつなぎ、その様子を配信し開催した。コロナ禍により遠隔コミュニケーションが普及しオンラインの利用によるグローバルな開催も可能になり、今後更に多くの皆様からご指導頂ける契機になった。多方面で活躍する先輩方の貴重な経験談を情報収集することにより、有意義な講演会が実施することが期待される。

ぞうどめ まきこ
(増留 麻紀子 助教)



建築ナビ当日の様子 左より | 藤園様 岩本様 柳様 塩屋先生 スクリーン | 後藤様

工学部同窓会学生諸活動助成報告

各PGの学生会員が企画する催しおよび工学部体育祭を助成しています。

令和3年度も新型コロナウイルスの感染防止のため実施が見送られました。

工学部体育祭

令和3年度は新型コロナウイルス感染症のため中止。

鹿児島大学工学部同窓会会則

(名称)

第1条 本会は鹿児島大学工学部同窓会と称する。

(目的)

第2条 本会は会員相互の親睦と母校の発展をはかり、主として科学技術を通じて社会に貢献することを目的とする。

(事業)

第3条 本会はその目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1、会員名簿の発行
- 2、会報の発行
- 3、工学部助成
- 4、その他、本会の目的を達成するために必要な事業

(組織)

第4条 本会は次の会員で組織する。

- 1、正会員：鹿児島県立工業専門学校、鹿児島県立大学工学部および鹿児島大学工学部卒業生および在学生、ならびに同専攻科および同大学院工学研究科および理工学研究科（工学系）修了生および在学生
- 2、特別会員：鹿児島大学工学部教官・教員、ならびに鹿児島県立工業専門学校、鹿児島県立大学工学部および鹿児島大学工学部の教官・教員であったもの、その他評議会で承認されたもの
- 3、名誉会員：総会の決議により推薦されたもの
- 4、榮譽会員：本会に対して特別の貢献のあった正会員で、総会の決議により推薦されたもの

第5条 本会は本部を鹿児島大学工学部内におく。

第6条 本会に学科別会員をもって組織された各部会をおく。部会の組織については細則にこれを定める。

(役員)

第7条 本会には次の役員をおく。

本部役員として会長1名、副会長5名、顧問1名、評議員 各部会毎に10名以内、幹事3名、監事2名をおく。評議会が必要と認めた場合、名誉役員として名誉顧問を若干名おくことができる。

第8条 本部役員および名誉役員の任期は3年とする。ただし会長は2期までとし、その他の役員は再任をさまたげない。

第9条 顧問は工学部長とし、評議員は各部会より推薦する。会長、副会長、幹事、監事は評議会において選出する。名誉顧問は評議会において推薦する。

(運営)

第10条 会長は本会を代表し会務を総理し、評議会の議長となりその決議を執行する。副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はこれを代行する。本部役員は評議会を構成し会務を審議する。幹事は会務を処理する。監事は会務全般の監査を行う。名誉顧問は評議会の諮問に応じ、会務の執行に対して意見を述べることができる。

第11条 会長は3年毎に総会を開き会務を報告する。ただし収支決算は毎年各部に報告する。

(会計)

第12条 会員は終身会費を納付しなければならない。ただし、特別会員および名誉会員はこの限りではない。

第13条 本会の運営に必要な経費は終身会費および雑収入をもってこれに充てる。

第14条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(会則変更)

第15条 本会の会則の変更は評議員総数の2/3以上の賛成を得た議案に対し、総会に諮ってこれを改正する。

(附則)

本会則は平成18年3月18日より施行する。

細則

(事業)

第1条 会員名簿の発行は5年ごととし、会報は原則として年1回発行する。会報は、卒業生に関しては会費納入者のみに配布する。

(役員)

第2条 幹事は庶務、会計および編集等を分担する。

(部会)

第3条 部会は会員の希望により2学科以上をもって部会を組織することもできる。

第4条 部会は本会則の趣旨に沿ってそれぞれの会則を定めて運営し、その状況を適宜会長に報告する。

第5条 部会は必要に応じて各地区に部会支部をおく。ただし、支部会員の希望により部会支部は合同して同窓会支部を組織することができる。

(会計)

第6条 終身会費は入学時に20,000円とする。

第7条 会費の一部は入学定員により各部に按分され、部会独自の事業を行う。

昭和29年3月1日制定 (鹿児島工学会)

昭和33年3月5日改正 (鹿児島大学工学部同窓会規約)

昭和41年8月28日改正 (鹿児島大学工学部同窓会会則)

昭和48年9月1日改正

平成9年2月21日改正

平成18年3月18日改正

平成27年3月7日改正

平成29年8月18日改正

平成30年8月17日改正

令和2年8月28日改正

編集後記

本部編集幹事・福原 稔

ここに工学部同窓会会報「南桜風」第19号をお届けいたします。

令和3年度より3年間、同窓会本部の編集幹事を担当させていただくことになりました。任期中、会報「南桜風」の発行を令和3年度（本誌）、令和4年度（20号）、令和5年度（21号）に予定しています。本誌では、各プログラム・専攻の状況、各部会の活動状況などの紹介のほか、工学部創立75周年記念事業および名誉会員に関する内容も紹介しておりますので、是非ともご高覧ください。コロナ禍の中でいろいろとご不便なところ、原稿の執筆にご協力いただきました皆様へ感謝申し上げます。

また、編集部会の重要な事業として名簿発行があります。同窓会名簿第16号は令和2年3月に発行され、毎年追録版を作成しています。第17号（令和7年3月発行予定）に向け、会員の皆様の判明率の向上を目指して、住所不明者の情報や住所変更など、同窓会本部へご連絡くださいますようよろしくお願い申し上げます。

機友会編集幹事・松崎 健一郎

昨年に引き続き南桜風の編集作業を担当しました。手際良く進めることはできませんでしたが、支部役員の皆様や執筆を依頼した学生さんのご協力により、無事入稿することができました。この場を借りてお礼申し上げます。コロナ禍が続いており令和3年度の行事もほとんど中止となってしまいました。行事予定につきましては引き続き機友会のホームページにて情報発信してまいりますので、ご確認いただければ幸いです。

錦水会編集幹事・鹿嶋 雅之

コロナ禍で大変な中、支部総会が中止となった支部もありましたが、それでも多くの寄稿をいただき心より感謝いたします。この2年間は、各支部の総会への教員の派遣も出来ない状況が続いており、非常に残念でした。ですが、来年こそは支部総会にお邪魔させていただき、一層の交流を深めさせていただきたいと思っております。

AOI会編集幹事・増留 麻紀子

会報作成にあたり、ご多忙中に関わらず寄稿頂きました皆様へ心よりお礼申し上げます。新型コロナウイルスは私たちの生活を一変させました。ですが、ツールの変化でオンライン利用が容易となり、本年新しい試みで建築ナビを開催できたことは、今後の展望の一つと考えます。今後も様々な交流を模索したいと思います。皆様どうぞよろしくお願い致します。

南窓舎密会編集幹事・中島 常憲

本年度より編集幹事を務めさせていただいておりますが、不手際により各方面へご迷惑をおかけすることになりました。お詫び申し上げます。現在もコロナ禍で多くの行事が制約を受け十分に活動できない状況かと察します。次年度以降は、色々な制約が緩和され、各支部の活動も徐々に再開されていきますよう祈念いたしております。その節は、近況報告として南桜風紙面に掲載させていただければと思っております。南窓舎密会の最新の活動状況は、ホームページにて情報更新していきますのでご活用いただければ幸いです。

しらなみ会編集幹事・小池 賢太郎

今年度も無事に南桜風を刊行することができました。執筆をご担当いただきました本部、支部関係者ならびにOB・OGの皆様へ御礼申し上げます。

Withコロナもついに3年目を迎え、多くの学生が“学生のうちにしかできないこと”を経験できないまま卒業する可能性があります。

そういった学生に対して、同窓会として何かサポートできないかと常々思います。

THE NEW VALUE FRONTIER



自分を磨く仲間が集えば、想像を超えていける。



ひとりひとりの歌声が、個性を輝かせて素晴らしいハーモニーを奏でるように
技術もまた重なりあって、かつてない価値を生み出していきます。

みんなが夢と理想を描き、実現をめざしてひたむきに努力する。その力をひとつに
あらゆるフィールドで想像を超える世界へ。京セラは、挑戦しつづけます。

かなえたい未来へ。京セラ

各種カーボン類・鉱産物・無機化学品・ラオス各種産品輸入卸売

前畑産業株式会社
ミハラカーボン株式会社
前畑産業開発株式会社

代表取締役社長 前畑 康三（喜入瀬々串町出身）

工学部応用化学科（昭和37年卒）



本社 〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1-3-1-5F

TEL03-3862-8901 FAX 03-3862-8903 携帯 090-3084-9932

営業所 大阪/名古屋/富山/福山/市原営業倉庫

活性炭工場 ラオス国カモワン県タケーク市

各種原料・製品を、中国を中心に東南アジアから輸入・販売
しています。

URL <http://www.mkw.co.jp/maehata/index.htm>

会報「南桜風」の郵送が不要の方へのお知らせ

会報は会員の方で住所が判明しているすべての方へ無償で配布しておりますが、皆様のご希望により“郵送は不要”とお申し出された方には次号より郵送を中止とさせていただきます。下記の書式にてFAX・メールでお知らせください。*メール・FAXでの連絡内容

会報の郵送不要：氏名・住所・卒年・学科

メールアドレスのお知らせ

*E-mail：メールアドレス：kadai.eng.dousoukai@gmail.com

電話 / FAX：099（285）3494

なお、メール・FAXで送れない方は電話にてお知らせください。（FAX番号と同様）

ただし今回メール・FAX・電話にて連絡された方であっても、数年後に郵送の再開を希望される場合はご連絡いただきますと送付いたします。

なお、郵送不要と連絡済みの方にも郵送された場合は、お許しいただきますとともに改めてお知らせいただければ幸甚に存じます。

住所変更の連絡のお願い

現住所が変更になられた際は同窓会にもご連絡ください。同窓会のHP「異動の連絡」あるいは電話・FAXにてお知らせください。同窓会より名簿発行などのお知らせをいたします。

表紙写真：2001年11月 海洋土木の側道から東をのぞむ

鹿児島大学工学部同窓会における個人情報に関する基本方針

プライバシーポリシー

新たに皆様から頂く個人情報及び従来から本会で保有しております個人情報につきましては、個人情報保護法に従い下記のように取り扱います。

1. 個人情報の収集・利用目的

本会では以下の情報を収集いたします。

①名前、②自宅住所、③電話番号、④勤務先、⑤勤務先電話番号、⑥電子メール

2. 個人情報の利用目的

収集した情報は次に掲げる目的で利用いたします。

- (1) 卒業生データの作成・管理を目的とするもの
- (2) 総会等運営のために必要な文書等の送付を目的とするもの
- (3) 会報、名簿および各種お知らせ等の送付を目的とするもの
- (4) 大学への情報提供を目的とするもの

3. 委託先および第三者提供先

この文書に定める利用目的に関連して、機密保持契約を締結した委託先に会員等の個人情報を提供する場合は、適格性を十分に審査し、本会が求める個人情報保護体制を維持できるように管理・監督いたします。

4. 安全管理措置

本会は、この文書で定める事項に適用するように収集した個人情報を安全に取り扱い、不正アクセス、紛失、改ざんまたは遺漏が生じないよう適切な措置を講じます。

5. 個人情報の開示・訂正・利用の停止等の申し出先

本人が当該本人に関する個人情報の開示・訂正・追加・利用停止の請求ならびに個人情報の取り扱いに関する問い合わせを行う場合の連絡先は以下の通りです。

鹿児島大学工学部同窓会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21-40

T E L 099-285-3494

F A X 099-285-3494

同窓会事務局開局日：月・水・金（10時～17時）



なんおうふう
会報「南桜風」を同窓会ホームページに掲載しています

工学部同窓会では会報「南桜風」を発行し、大学の近況や学科の様子、各部会の活動状況、新卒者の就職・進路先などを紹介しております。また、創刊号からの会報をホームページ（HP）にも掲載し多くの会員の皆様へご覧いただけるようにしました。どうぞご覧ください。

工学部同窓会ホームページ <https://kadai-eng-dousou.sakura.ne.jp>

★会報は、住所が判明している会員の皆様へ無償で配布しております。

